グリニッチ公立学校
学習要領にもとづいた小学校成績表

ペアレント ハンドブック

初版: 8/16/2011

改訂: 6/12/2012

はじめに

このハンドブックは、学習要領にもとづいたグリニッチ小学校(幼稚部ー５年生)成績表を、保護者の方々に正しくご理解いただくために作られたものです。

グリニッチ公立学校は、連邦政府と州により定められた学習要領に沿った教科課程を作成しています。また、それらの要領を達成目標にかかげた学習の様子を評価する成績表も作成しています。

成績表は、学習要領にそって、各学期・科目ごとに達成されるべき学年別の具体的な目標を明確にしてあります。たとえば、算数の学習要領は幼稚部から五年生まで一貫していますが、幼稚部生と三年生では、それを達成するための目標は違います。また、その幼稚部生の学習要領達成の目標は、春学期と秋学期で違ってきます。

この学習要領にもとづいた成績表は、学校区の教育課程/査定に含まれる目標を反映したものです。 このハンドブックを参考にすることで、お子さんの目標達成度を、学区内共通の学習要領と比較することができます。それにより、お子さんの各学年・学期ごとの目標をめざした学習のようすを、よりいっそう正しく理解することができます。

このハンドブックは、 学年別にまとめてあります。それぞれの教科/学年ごとの目標設定の参照としてお使いください。

目次

はじめに 2
アルプ生のための修正目標 5
アルプ成績表注意書き 5
障害のある子供たちのために修正された目標（特殊教育/504 プラン） 6
英語学習者（ELLs） 6
幼稚部 7
幼稚部成績表 － 英語 7
幼稚部成績表 － 算数 9
幼稚部成績表 － 理科 10
幼稚部成績表 － 社会 12
幼稚部成績表 － ワールドランゲージ 13
幼稚部成績表 － 音楽 14
幼稚部成績表 － 体育 15
幼稚部成績表 － 図画工作 16
一年生 17
一年生成績表 － 英語 17
一年生成績表 － 算数 19
一年生成績表 － 理科 20
一年生成績表 － 社会 22
一年生成績表 － ワールドランゲージ 23
一年生成績表 － 音楽 24
一年生成績表 － 体育 25
一年生成績表 － 図画工作 26
二年生 27
二年生成績表 － 英語 27
二年生成績表 － 算数 29
二年生成績表 － 理科 31
二年生成績表 － 社会 33
二年生成績表 － ワールドランゲージ 34
二年生成績表 － 音楽 35
二年生成績表 － 体育 36
二年生成績表 － 図画工作 37
三年生 38

三年生成績表 – 英語 38
三年生成績表 – 算数 40
三年生成績表 – 理科 42
三年生成績表 – 社会 44
三年生成績表 – ワールドランゲージ 45
三年生成績表 – メディア/テクノロジー 46
三年生成績表 – 音楽 47
三年生成績表 – 体育 48
三年生成績表 – 図画工作 49
四年生 50
四年生成績表 – 英語 50
四年生成績表 – 算数 52
四年生成績表 – 理科 54
四年生成績表 – 社会 56
四年生成績表 – ワールドランゲージ 57
四年生成績表 – メディア/テクノロジー 58
四年生成績表 – 音楽 59
四年生成績表 – 体育 60
四年生成績表 – 図画工作 61
五年生 62
五年生成績表 – 英語 62
五年生成績表 – 算数 64
五年生成績表 – 理科 66
五年生成績表 – 社会 68
五年生成績表 – ワールドラゲージ 69
五年生成績表 – メディア/テクノロジー 70
五年生成績表 – 音楽 71
五年生成績表 – 体育 72
五年生成績表 – 図画工作 73

英才プログラム（アルプ）

アルプ生のための修正目標

成績表に記載されている学習要領は、グリニッチ学区の全生徒を対象に一貫したものです。

算数、英語、理科の英才プログラムの参加者は、在籍学年目標の達成もしくは卓越をめざします。

アルプ生は、在籍学年以上の目標達成能力が評価されます。 アルプ以外の子供たちは、在籍している学年目標を基準に成績がつけられます。

お子さんが、算数、英語、もしくは理科のアルプに在籍している場合は、アルプ成績表注意書き（各教科共通）を参考にしてください。

アルプ成績表　注意書き

評価基準	
卓越	
5	アルプ目標（在籍学年以上の目標）のほとんどを卓越。
4	アルプ目標のすべてを達成、そのうちのいくつかは卓越。
達成	
3	アルプ目標のほとんどを達成。
未達成	
2	アルプ目標のいくつかを達成、いくつかは未達成。
1	アルプ目標のほとんどが未達成。

障害を持つ子供たちのために修正された目標
（特殊教育/504 プラン）

個人教育プラン（I.E.P.) もしくはセクション 504 プランの子供たちは、ひとつ、もしくはひとつ以上の主要教科の学年目標修正を必要とすることがあります。その場合、すでにこのハンドブックで説明されているように、その子供の目標は他の同学年の子供たちの目標と違ってきます。

成績表の主要教科の横のチェックマークは、IEP もしくはセクション 504 の担当者が、その教科の目標は修正されるべきであると判断したということを示します。 その場合、保護者は IEP もしくはセクション 504 プランを参照し、特殊教育の教師、担任の教師と、目標がどのように修正されたかを確認してください。目標修正により、学年目標は達成できなくても、お子さんが目標をめざしどのように学習しているか, どこまで目標を達成しているかなどを正確に把握することができます。

すべての子供たちが学年目標達成に向かい努力する中で、障害を持つ子供たちには個人のニーズにあった目標修正がされています。

英語学習者(ELLs)

英語学習者（ELLs)はグリニッチ公立学校内の多様性を象徴する存在です。ELL の子供たちは出身国も母国語も様々です。また、英語を過去に学習した事がなく、英会話力、文章力がほとんどない子供たちから、英語を母国語とする子供たちと同じくらいに、すべての分野で語学力がある子供たちまでその能力も様々です。そのため、 ESOL（英語が母国語でない英語学習者）レベルが 1 もしくは 2 の子供たちは ESOL 成績表を、ある程度の英語力がある子供たちは一般の子供たちと同じ成績表を受け取ります。ESOL の教師は子供たちの担任教師と共に、目標が達成されているかどうか検討します。すべての子供たちに同じ目標を達成することが求められていますが、英語習得途中の ELL 生たちはその目標を達成することができない場合があるかもしれません。そのような場合でも、英語が順調に上達していれば、その旨が成績表に記載されます。英語を習得し、読解力や文章力が向上すれば、いずれは多くの ELL 生たちが一般目標を達成できるようになります。

幼稚部成績表　－　英語

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。 教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領 1: 読解法 **テキストの中の言葉を認識し、流暢に読み、自己チェック、自己修正を行い、理解するための読解技術を応用する。**
活字概念: ページのどこから読み始めるか、文字と言葉の違い、活字が意味を持つということの理解など、本の基本知識。
文字の知識: それぞれのアルファベット（大文字と小文字）の名前と形がわかる力。
音素の認識: 話し言葉の中で、音韻を聞き分け、認識し、（文節と混成音を）使い分ける力。
音声学: 書かれた文章の中で、文字と文字の組み合わせの系統立った関係を理解し、その関係を応用し言葉を読んだり綴ったりする力。
高頻度語認識と語彙: 高頻度語認識とは、規則、不規則動詞を含めた、学年レベルの語彙がわかること、語彙とは言葉の意味や正しい使い方がわかること。
読解: 様々な単語学習法、読解法、また他の技法（例：質問、想像、予測、関連づけ）を使い、学年レベルの書面テキストから意味を取り出し、組み立てる力。
学習要領 2: 文章を読み、理解し、応える。 **様々な媒体による様々な形態の文章（文学、情報、説得）に応じる。**
テキストに口頭で応える: 質問、予想、関連づけなどを使い、テキストの深い理解を念頭に、読書の前、間、後に教師とクラスメイトとの話し合いに参加する力。
話の再現: 物語の大事な部分を抜粋、話の前、間、後の出来事を自分の言葉で再現し、要約する力。
読書感想と読書態度: 自己の能力にあって飽きずに読み通せる本を選び、読書を楽しみ、読解力を向上させ、本をしっかり読むことに満足感を覚える力。
学習要領 3 : 他人とのコミュニケーション **自己の考えや体験を、文章、口頭、絵や図などで表現、発展、具体化する。**
文章によるコミュニケーション: 自分の気持ちや考えを伝えるために、書き言葉の特性や、物を書く過程を利用して、目的や読者に合った文章をつくる力。
口頭によるコミュニケーション: 学年相応のテキストや、観念的な話題について、自ら率先してグループ討論に参加し、自己の意見を主張し、その意見を裏付け、様々なデジタル媒体を使って討論を進める力。

学習要領4: 正しい英語を使う。 **口頭、書面、視覚コミュニケーションで、正しい英語を使う。**
高頻度語をつづる: 毎日の授業で頻繁に使われる言葉を、文脈に合わせ正しくつづる力。 （例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
氏名を書く: 自分の作品に、名字と名前を正しく書く力。
手書き文字: 年齢相応の読みやすい字を書く力。

幼稚部成績表　－　算数

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義は以下とおりです。

学習要領 1: **数字の理解と運用**	**こんな質問に答えます:** 十進法が、分数、少数、百分率、割合にどのように関わっているか。
・１００までの数を順番にいう。 ・序数の概念を理解する。（例:first/一番目とlast/最後） ・０から３０までの数を使って、ひとまとまめになっている物の数を数えたり、まとまりを作ったりする。 ・見積もりの意味を理解する。 ・３０以下の数字を読む。 ・口頭による文章題に答える。 ・足し算と引き算の基本概念を理解する。	
学習要領 2: **測定**	**こんな質問に答えます:** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題をどうを解決するか。
・物の大きさを比べる。 ・ペニー、ニッケル、ダイム（硬貨）の価値と通称名を知る。 ・計量器とは何かがわかり、計量器を正しく使う。	
学習要領 3: **図形と空間**	**こんな質問に答えます:** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題をどうを解決するか。
・円、正四角形、三角形、長方形を見てわかる。 ・簡単なグラフを作成し解釈する。 ・確か(certain)、可能(possible)、不可能(impossible)などの言葉を使って出来事を説明する。	
学習要領 4: **データと統計**	**こんな質問に答えます:** データの収集、整理、表示が、情報の分析、適切な予想、情報に基づいた判断にどのように役立つか。
・物を仕分け、分類する。 ・パターンを理解、応用、継続する。	
学習要領 5: **代数**	**こんな質問に答えます:** パターンと関数が、データや物理的現象を説明し、様々な問題を解決するのにどう役立つか。
・ 物を仕分け、分類する。 ・ パターンを理解、応用、継続する。	

幼稚部成績表　－　理科

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1:

K.1: 物の性質は観察でき、その特徴により類似点や相違点を説明できる。

- 五感と、五感を取り入れる体の部分、取り入れられる情報の組み合わせがわかる。
- 五感で物を観察、観察された特徴を比較し、観察した物の名前、使い方を識別する。
- 観察することでわかる特徴を基に、生物や物を分類し、分類の基準を説明する。（例: 大きさ、色、形、感触、柔軟さなど）
- 単純な道具や非標準単位を使って、物の大きさ、重さ、磁気の有無、水に浮くか沈むかなどを調べたり予測したりする。
- 木、プラスチック、金属、布、紙などの特徴を説明し、物を素材で分類する。
- 観察してわかる特徴を基に、数えたり、順番に並べたり、分類したりする。

学習要領2:

K.2: 様々な種類の生物が地球上に生息している。

- 成長の仕方、生殖の仕方、食物から得るエネルギーの必要性などを基準に生物や無生物を観察し、その違いを説明する。
- 教室、校庭、本などで見ることのできる生物と無生物を仕分け、数え、分類する。
- 非標準測定単位を使って、様々な植物や動物の背の高さ、長さ、重さなどを予測し比較する。
- 植物と動物を観察し、類似点や相違点を書いたり、口頭で説明したり、絵に描いたりする。
- 成長した植物や動物の絵や模型と、その子孫の絵や模型とをマッチさせる。
- 同種類の様々な動物を、いくつかの特性で分類する。（例: 毛色が違うウサギや猫、耳がたっている/垂れているウサギや犬など）

学習要領3:

K.3: 天気は、日ごと、季節ごとに変化する。

- 五感を使って日々の天気を観察し、表、チャート,グラフ、カレンダーなどを使って、集めた情報を記録する。
- ある期間（朝昼晩、日ごと、季節ごと）にわたり収録した情報を分析し、パターンを見つけ、比較、予測する。
- 雲の形、大きさ、色を観察、比較対照し、雲の様子と天気（快晴/雨)を関連づける。
- 天気が人間、動物、植物に与える影響について、書き、話し、描く。
- 天気にあった服装や活動を選ぶ。

学習要領 4:

K.4: 物には自然のものと、人の生活向上を目的に作られた人工のものがある。

- 屋根、窓、壁や床などに使われる材料の特徴とその有効性を比較する簡単な実験をする。（例:防水性があるか、透明か、耐久性があるかなど）
- 世界の様々な地方に住む人々によってつくられた家に使われる材料についての説明を本、雑誌、絵の中から探す。
- 人間や動物がつくる家/巣の材料を比較対照する。

幼稚部成績表　－　社会

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **社会科の知識:** 歴史や社会から学ぶ観念、テーマ、知識は、アメリカと世界の理解を推進するのに必要である。
目標（抜粋）:
・繰り返し起きる出来事と、その頻度を認識する。 ・前と後という表現を使って、起こった事を比較する。 ・人間の行動が環境にどう影響するかについて話し合う。 ・安全や公平さに関する規則がある理由、 学校コミュニティーまたはクラスの一員として一人一人責任を持たなければいけない理由を説明する。 ・自分と家族の文化的な特性を理解する。
学習要領2: **歴史/社会の学習に必要な読み書き能力:** 読み、書き、質問し、調査する力は、歴史や社会の情報を分析、評価、発表するために必要である。
目標（抜粋）:
・特定の話題に関する適切な情報源を見つける。 ・五感、活字、様々な形のメディアから集めた情報を解釈し、他人と共有する。 ・自分の過去（歴史）を振り返り、絵や文章を使ってかきとめる。 ・過去や将来の経験や出来事を、グループでの話し合いや、劇化することで伝える。 ・教室にある材料を使って、自分の地域の地形や立地などを、詳細を交えて表す。
学習要領3: **社会の一員としての自覚:立派な社会の一員として、歴史上又は時事問題を分析するには、情報、技術力、評価力などを総合させて使うことが必要である。**
目標（抜粋）:
・　他人が特定の状況でどう感じるかを予想する。 ・　対立やクラスでの問題を適切な手段で解決する。

幼稚部成績表　－　ワールドランゲージ

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: コミュニケーション（他人とのコミュニケーション）: 会話や手紙のやり取りに従事し、情報を収集、提供し、意見や感情を伝える 。
・（誘導されて）完全な文を使って話す。 ・ 学んだ語彙を使って、身近な話題を話す。 ・（誘導されて）日常生活や授業で意思の疎通をする。
学習要領2: コミュニケーション（話しかけられたこと、書かれたことを理解する): 様々な話題について、話し言葉や書き言葉を理解し解釈する。
・話されている内容のサポートと、反復のある、普通の速さの会話を理解する。
学習要領3: コミュニケーション（伝える): 様々な話題について、聴者や読者を対象に情報、概念、アイディアなどを伝える。
・パーソナルな、またはテーマに基づいた話題について, 個人やグループを対象に口頭で短い発表をする。（教師の誘導が必要/多少の躊躇がある）
学習要領4: 関連づけ（他の教科との関連づけ): 学習している言語を使って、他の教科の知識を広げ理解を深める。
・社会や理科に関係する話題を、特定の語彙を使って話す。 ・学習した言語を使い、教科分野の話題を広げたり詳しく説明したりする。

幼稚部成績表　－　音楽

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&4: 音楽の基本知識
・4 つの声の使いかた、話す、歌う、叫ぶ、囁くの違いを識別、実演、見分ける。 ・歌の一部と韻文詩を繰り返して言う。 ・喉で音を隙間なく滑らせるようにして、様々な音をだしてみる。（グリッサンド） ・一定のビートを保ちながら、歌を歌い、韻文詩を詠唱する。 ・教師の拍子に合わせ、 体や、クラスにある楽器を使って、ビートを継続する。
学習要領2: 創作
・馴染みのある歌や韻文詩に合わせ, 体や年齢相応の楽器を使って一定の拍子をとる。 ・最低２ー３の音を使ってレベル１アリオソ（子供の作る言葉のない歌）をつくる。（即興） ・体の色々な動かし方を見つける。
学習要領3 & 5: 対応と関連づけ
・高い/低い音、大きい/静かな、早い/遅い音を聴く。 ・教師の演じる“歌話”を聴いて応対する。 ・録音された音楽に対して年齢相応の動き(推薦された動きのレパートリーを基本に)をする。 ・　教師の先導で、録音された音楽、馴染みの歌、韻文詩に合わせて２ー３拍子をとる。 ・　動きの中のパターンを見つける。 ・　クラスの中でつくる音や動きを他の教科（算数、英語、体育、図画工作）や普段の生活と関連づける。 ・　クラスで聴く音楽と普段の生活で聴く音楽や活動を関連づける。

幼稚部成績表 － 体育

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **運動技能と運動パターン**
目標（抜粋）:
・ 正しくホップ（片足で軽く跳ぶ、もしくは両足でピョンピョン跳ぶ）、ジャンプ、スキップ、ギャロップ、スライド（ギャロップで横に動く）したり、走ったりする。 ・ 複数の移動運動技術を組み合わせ、リズミカルなパターンを実演する。 ・ ドリブルする、バウンドさせる、受け止める、投げる、打つ、ボリーするなどの、ボール制御運動技術を示す。
学習要領2: 概念と手段を活用する。 運動の効用の認識。
目標（抜粋）:
・ 指示に従い実技を行い、自分の実技に対する他人の意見や評価に応じる。 ・ 運動に関する語彙を増やす。 ・ 授業や授業以外で運動活動に参加する事による効用やプラスの感情を認識する。
学習要領3: 体力と運動への取り組み
目標（抜粋）:
・ 選択された体力増進活動を行い、特定の体の部分を鍛える体操を認識する。（例：1/4マイルジョギング、腹筋、ABC腕立て伏せ、ストレッチ、垂直跳び、バランス、アジリティランなど） ・ 運動が心臓の健康と関わりがあり、活動的でいることがいかに大切かということの理解を深める。 ・ 体育の授業中に、軽度から激しい運動を行い、運動をしている時と停止している時の心拍数の変化を認識する。 ・ 移動運動、非移動運動で、粗大運動技術の実技を行い、全身管理が必要な様々な活動を実演する。
学習要領4: 社会的責任、運動を通じてのチーム作りと他人との共同活動
目標（抜粋）:
・ 他人の権利と気持ちを考えながら、一所懸命、協力して活動に参加する。 ・ 運動活動をする際、自己制御し、安全規則を守る 。

幼児部成績表　－　図画工作

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&2: 意義のある表現をする/美術と交わる。
・自然と環境に触発されつくられた美術作品を認識する。 ・自分の感情、気持ち、体験や物語を絵に描く。 ・クラスで紹介された巨匠芸術家や自分の美術作品で、原色、図形、線などの使われ方を認識する。 ・芸術や身の回りにあるパターンを認識する。
学習要領3&4: 自分の考えを表現する/シンボルや表現を解釈したり作ったりする/美術教養を養う
・過程、技術、媒体などで作品を見分ける。 ・線、形、色を使って抽象画を描く。 ・クレヨン、ペイントブラシ、粘土、マーカー、はさみ、のりといった様々な媒体、道具、素材の名称がわかる。 ・原色を認識し、使う。 ・原色を混ぜ合わせ新しい色をつくる。 ・切ったり貼ったりが上手にできるようにする。 ・美術の基本：線、形、色がわかる。 ・立体彫刻を造る。（例:木、紙、粘土） ・ひとりで、もしくは他の人と協力して、画材を安全に片付け、きちんと手いれする。（例：ペイントブラシを洗う、作業後使った場所を片付ける、材料を整理する、はさみを持ち歩く時に正しく持つ） ・平面や立体作品の表面を塗る。
学習要領5: 美術に応える。
・教師やクラスメイトと美術作品について話し合う。 ・美術に関してクラスメイトと自分は違った見方や意見を持つこともあるということを理解する。 ・平面の美術作品の構成条件を説明する。 ・立体の美術作品の構成条件を説明する。

一年生

一年生成績表 – 英語

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領 1: 読解法 **テキストの中の言葉を認識し、流暢に読み、自己チェック、自己修正を行い、理解するための読解技術を応用する。**
音素の認識: 話し言葉の中で、音韻を聞き分け、認識し、（文節と混成音を）使い分ける力。
音声学: 書かれた文章の中で、文字と文字の組み合わせの系統立った関係を理解し、その関係を応用し言葉を読んだり綴ったりする力。
高頻度語認識と語彙: 高頻度語認識とは、規則、不規則動詞を含めた、学年レベルの語彙がわかること、語彙とは言葉の意味や正しい使い方がわかること。
流ちょうさ: 学年相応のテキストを、正確に、適切な速さで、表現豊かに読む力。
読解: 様々な単語学習法、読解法、また他の技法（例：質問、想像、予測、関連づけ）を使い、学年レベルの書面テキストから意味を取り出し、組み立てる力。
学習要領 2: 文章を読み、理解し、応える。 **様々な媒体による様々な形態の文章（文学、情報、説得）に応じる。**
テキストに文章や絵で応える: 読んだ文書テキストから意味を見いだし、テキストに対する自分の意見/解釈や、テキストで作者が読者を引きつけるために使っている技法についての見識などを、文書にしたり絵に描いたりして表現する力。
テキストに口頭で応える:（個人読書/音読）質問、予想、関連づけなどを使い、テキストの深い理解を念頭に、読書の前、間、後に教師とクラスメイトとの話し合いに参加する力。
話の再現: 物語の大事な部分を抜粋、話の前、間、後の出来事を自分の言葉で再現し、要約する力。
グループ討論: 読んだテキストについて、さらに深く理解することを焦点に、質の高い質問を考えだし、テキストを読む前、読んだ後にグループで話し合う力。
読書感想と読書態度: 自己の能力に合って飽きずに読み通せる本を選び、読書を楽しみ、読解力を向上させ、本をしっかり読むことに満足感を覚える力。

学習要領３:他人とのコミュニケーション
自己の考えや体験を、文章、口頭、絵や図などで表現、発展、具体化する。

文章によるコミュニケーション: 自分の気持ちや考えを伝えるために、書き言葉の特性や、物を書く過程を利用して、目的や読者に合った文章をつくる力。

口頭によるコミュニケーション: 学年相応のテキストや、観念的な話題について、自ら率先してグループ討論に参加し、自己の意見を主張し、その意見を裏付け、様々なデジタル媒体を使って討論を進める力。

学習要領4: 正しい英語を使う。
口頭、書面、視覚コミュニケーションで、正しい英語を使う。

高頻度語をつづる: 毎日の授業で頻繁に使われる言葉を、文脈に合わせ正しくつづる力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）

日常の文章で、音声学のきまりを利用して言葉を正しくづづる。: 日常のクラスワークで学年相応の音声のきまりを応用して言葉を正しくづづる力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）

学年相応に、大文字や句読点を適切に使う:日常のクラスワークで大文字や句読点を学年相応に適切に使う力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）

手書き文字: 年齢相応の読みやすい字を書く力。

一年生成績表　－　算数

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義、学習要領が答えとなる質問は以下とおりです。

学習要領１: **数字の理解と運用**	**こんな質問に答えます:** 十進法が、分数、少数、百分率、割合にどのように関わっているか。
・１、２、５、１０ごとに１００以上まで数える。 ・１００までの整数を読み、書き、使う。 ・ペニー、ニッケル、ダイム、クオーター（硬貨）を識別、価値と通称名を知る。 ・およその数字を使って、ひとまとめになっている物の数を予想する。 ・足し算と引き算を解く。 ・ペニー、ニッケル、ダイム、クオーターの組み合わせによってできた硬貨一式の価値を計算する。 ・１００までの数字や量を、順序づけ、比較する。 ・１の位、１０の位、１００の位、１０００の位の値を理解する。 ・数字を読む。 ・分数の部分（分母、分子など）を見分ける。	
学習要領 2: **測定**	
・時間、半(30分)、15分を使って時刻を読む。 ・長さの標準単位を使う：インチ、センチメートルを使っておおよその物の長さを計る。 ・等号と単純不当等号（＝、＜、＞）を使う。 ・温度計をカ氏で読む。 ・基本単位となる小さな四角を使って面積を計る。	
学習要領 3: **図形と空間**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・平面図形と立体図形を見分け説明する。 ・線分を書き、その長さを計る。 ・左右対象の形を見分ける。	
学習要領4: **データと統計**	**こんな質問に答えます：** データの収集、整理、表示が、情報の分析、適切な予想、情報に基づいた判断にどのように役立つか。
・タリーチャートや棒グラフを作成するのに必要なデータを集める。	
学習要領5: **代数**	**こんな質問に答えます：** パターンと関数が、データや物理的現象を説明し、様々な問題を解決するのにどう役立つか。
・単純な数字のパターンと法則を作る。 ・法則をみつけ“法則テーブル”を完成させる。	

一年生成績表 – 理科

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: 1.1: 太陽は毎日同じ経路を通って空を移動しているように見えるが、実際の動きは季節ごとに変化している。
・ 言葉（前、後ろ、隣、中、上、下）や数字（物の間の長さを測って）を使って物の位置関係を比較対照する。 ・ 物を直接もしくは間接的に押したり引いたりすることで、物の位置を変える。（例:まっすぐに、前に、後ろに、ジグザクに、円を描いてなど） ・ 物を動き方で分類する。（例:ぐるぐる回す、転がす、弾ませる） ・ 簡単な実験を行い、物の動きの方向や速さを変えたりする様々な方法を査定する 。 ・ 一日の太陽の動きを観察記録し、予測する。（朝、昼、夕方、夜） ・ 影に関する簡単な実験を行い、太陽（もしくは他の光）と物の位置関係の変化によって起こる影の変化について分析する 。
学習要領2: 1.2: 生物は基本的ニーズを満足させるための独特な形態や習性をもっている。
・ 印刷物、電子情報、また直接観察などから、ほとんどの動物と植物は、生存するために水、食べ物、空気が必要だということを推測する。 ・ 哺乳類、鳥類、両生類、は虫類、魚類、昆虫類などが移動し、呼吸をし、食物や水を得るための形態や習性を見きわめる。（例：足/羽/ひれ、えら/肺、鉤爪/指など） ・ 植物（もしくは植物の一部）を観察可能な特徴に基づき分類仕分けする。（例：葉の形や大きさ、茎や幹の表面、花や実） ・ 五感や簡単な計測道具を使って、 太陽の光と水の植物成長への影響を調べる。 ・ 物語やノンフィクションを読み、動物や食物に関する情報を比較対照する。
学習要領3: 1.3: 生命体はライフサイクルの一貫として形態や習性を変化させる。
・ 生物が、誕生、成長、生殖、死を含んだライフサイクルを経験することを説明する。 ・ 胎生の動物（例:人、犬、牛など）と卵生の動物（例:鶏、ウミガメ、ワニなど）を識別する。 ・ 変態する動物がライフサイクルの過程で経験する形態や習性の変化を、変態しない動物の変化と比較対照する。 ・ 観察結果を分析し、様々な動物の変態段階を比較し、観察されたパターンを基に推測する。
学習要領4: 1.4: 物質や生命体の特徴は標準測定単位を使うことで正確に表すことができる。
・標準測定単位もしくは非標準測定単位を使って物質や生命体の大きさ、長さ、重さなどを比較、説明する。 ・指、手、本などを使って、センチメートル、メートル、インチ、フット、ヤードの大体の長さを示す。 ・長さ、高さ、重さ、液体体積を測るのに一番適切な道具を選択する。 ・メートルの定規と普通の定規を使って、長さ、高さ、距離などをセンチメートル、メート

ル、インチ、フィート、ヤードなどで測る。
・生命体や物の重さをキログラム、グラム、ポンド、オンスなどで計り比較するために、天秤と計りを使う。
・メスシリンダー、ビーカー、計量カップを使って、液体体積をミリリットル、リットル、カップ、オンスで測る。
・温度計を使って摂氏とカ氏で空気と水の温度を測る。
・測定の記録からわかる成長の様子や長い間の気温のパターンなどを示すグラフを作る。

一年生成績表　–　社会

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **社会科の知識:** 歴史や社会から学ぶ観念、テーマ、知識は、アメリカと世界の理解を推進するのに必要である。
目標（抜粋）:
・歴史上の人物や、歴史と関わりのある祝日の重要性を説明する。 ・自分の町の重要な場所や主なる地形を、地図と記号を使って示す。 ・近所や町で人が起こした変化を見つけ、それが環境にどのような影響を与えたかを理解する。 ・模範市民の特徴を説明し、例をあげる。 ・生産者と消費者を比較対照し、消費される物とサービスの例をあげ、人々が物又はサービスをどのように受容するかを説明する。
学習要領2: **歴史/社会の学習に必要な読み書き能力:** 読み、書き、質問し、調査する力は、歴史や社会の情報を分析、評価、発表するために必要である。
目標（抜粋）:
・教師の指導のもと、印刷されていない情報を探し、集める。 ・絵、グラフ、チャートなどからの情報を解釈し、地図の基本記号を説明する。 ・自己の体験を社会の話題と関係させながら説明文を書く。 ・現在や過去の出来事、人、場所などを話題にした、グループ討論に参加する。 ・自分の周りの環境の、人間と自然の様子を模型や絵にする。
学習要領3: **社会の一員としての自覚:立派な社会の一員として、歴史上又は時事問題を分析するには、情報、技術力、評価力などを総合させて使うことが必要である。**
目標（抜粋）:
・一つの出来事に対する、様々な見方を説明する。 ・人の気持ちや物の見方が、時間と共に変化する具体例をあげる。 ・時事問題を見きわめ、それを解決する個人の責任を分析する。

一年生成績表　–　ワールドランゲージ

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: コミュニケーション（他人とのコミュニケーション）: 会話や手紙のやり取りに従事し、情報を収集、提供し、意見や感情を伝える 。
・（誘導されて）完全な文を使って話す。 ・ 学んだ語彙を使って、身近な話題を話す。 ・（誘導されて）日常生活や授業で意思の疎通をする。
学習要領2: コミュニケーション（話しかけられたこと、書かれたことを理解する): 様々な話題について、話し言葉や書き言葉を理解し解釈する。
・話されている内容のサポートと、反復のある、普通の速さの会話を理解する。
学習要領3: コミュニケーション（伝える): 様々な話題について、聴者や読者を対象に情報、概念、アイディアなどを伝える。
・パーソナルな、またはテーマに基づいた話題について, 個人やグループを対象に口頭で短い発表をする。（教師の誘導が必要/多少の躊躇がある）
学習要領4: 関連づけ（他の教科との関連づけ): 学習している言語を使って、他の教科の知識を広げ理解を深める。
・社会や理科に関係する話題を、特定の語彙を使って話す。 ・学習した言語を使い、教科分野の話題を広げたり詳しく説明したりする。

一年生成績表　－　音楽

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&4: 音楽の基本知識
・歌の一部や韻文詩を繰り返して言う/歌う 。 ・喉で音を隙間なく滑らせるようにして、様々な音をだしてみる。（グリッサンド）。 ・一定のビートを保ちながら、歌を歌い、韻文詩を詠唱する。 ・教師の拍子に合わせ、 体や、クラスにある楽器を使って、ビートを継続する。 ・体や楽器を使い、馴染みのある歌や韻文詩に合わせて一定の拍子をとり、ビートを保つ。 ・教師にリードされ、二拍子、三拍子の録音された音楽、馴染みの歌、 韻文詩に合わせて体を動かす。
学習要領2: 創作
・最低２ー３の音を使ってレベル１、２、３のアリオソ（子供の作る言葉のない歌）をつくる。（即興） ・音の強弱、高音、中音、低音を聞き分け、年齢相応の体の動きを使って違いを表す。（選ばれた動きのレパートリーに基づいて）
学習要領3 & 5: 対応と関連づけ
・高い、低い、大きい、静かな、速い、遅い音などの違いを見分ける。 ・教師の演じる“歌話”を聴き、応える。 ・年齢相応の様々な体の動きを使って音楽に応える。 ・年齢相応の体の動きを使って、重い/軽い、高/中/低の音の認識を表現する。 ・クラスで聴く音楽と、他の教科（算数、英語、体育、図画工作）や普段の生活とを関連づける。

一年生成績表 – 体育

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **運動技能と運動パターン**
目標（抜粋）: ・ジャンプ、ギャロップ、スキップ、ホップ、スライド、リープなどの移動運動実技を一定距離行う。 ・二つ以上の基本的な移動運動技能を繰り返す。 ・ボールを投げる、弾ませる、受け止める、蹴る、打つ、ボレーするなどの物の制御実技をする。 ・32インチの高さから4インチ上に跳んで降りる。
学習要領2: 概念と手段を活用する。 運動の効用の認識。
目標（抜粋）: ・指示をよく聞き実演し、実技に関しての他の人の意見や評価に応じる。 ・個人空間を尊重する。 ・授業や授業以外で運動活動に参加する事による効用やプラスの感情を認識する。 ・運動に関する語彙を増やす。
学習要領3: 体力と運動への取り組み
目標（抜粋）: ・選択された体力増進活動を行い、特定の体の部分を鍛える体操を認識する。（例：腕立て伏せ、スタティックホールド、綱のぼり、ストレッチ、腹筋、1/4マイルラン、垂直跳び、アジリティランなど） ・運動が心臓の健康と関わりがあり（運動することで心拍数が上がる）、活動的でいることがなぜ大切かということを理解する。 ・体育の授業中に、軽い運動からやや激しい運動を行い、運動をしている時と休憩している時の心拍数の変化を認識する。
学習要領4: 社会的責任、運動を通じてのチーム作りと他人との共同活動。
目標（抜粋）: ・他人の権利や感情を尊重し、協力しながらなおかつ一生懸命活動に参加する。 ・自己制御し、安全ルールに従いながら運動活動に参加する。 ・短い時間独りで練習をする。

一年生成績表　–　図画工作

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&2: 意義のある表現をする/美術と交わる。
・クラスで学んだ巨匠芸術家の作品を見分け説明する。 ・観察したり話し合いをしたりしながら、日々の生活と美術を関連づける。 ・抽象美術の特質について説明する。
学習要領3&4: 自分の考えを表現する/シンボルや表現を解釈したり作ったりする/美術教養を養う。
・様々な美術媒体、道具、技術などの使いかたを示し、実際にそれらを上手に使う。 ・自分の興味を反映した独自の美術作品を造る。 ・クラスで紹介された巨匠芸術家や自分の美術作品で、原色、図形、線などの使われ方を認識する。 ・美術道具の洗い方や管理の仕方を示し、その大切さを説明する。 ・自己の作品で表現したい感情や思い、考えなどを、作品に使用する様々な媒体、布地、繊維を選ぶことで表現する 。 ・色、線、形を使い様々なバターンを作品に取り入れながら美術作品を造り、それらの要素を認識する。 ・二次色を理解し、原色のみを混ぜ合わせて絵を描く。 ・線、形、色で美術作品がつくられていることを説明する。 ・様々な媒体を使い平面の美術作品を造る。 ・平面の美術作品と立体の美術作品を比較する。 ・様々な塑像法と混合媒体材料を使って立体の美術作品を造る。
学習要領5: 美術に応える。
・クラスメイトの作品についての質問を考える。 ・クラスで紹介された特定の美術作品に対する自己の好みを認識する。 ・作品の趣味が人によって違ういうことについて話し合う。 ・自分と他人の美術作品が平面か立体か説明する。 ・紹介された美術作品について考え、自己の体験と関連づける。

二年生

二年生成績表　–　英語

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領 1: 読解法 **テキストの中の言葉を認識し、流暢に読み、自己チェック、自己修正を行い、理解するための読解技術を応用する。**
音声学: 書かれた文章の中で、文字と文字の組み合わせの系統立った関係を理解し、その関係を応用して言葉を読んだり綴ったりする力。
高頻度語認識と語彙: 高頻度語認識とは、規則、不規則動詞を含めた、学年レベルの語彙がわかること、語彙とは言葉の意味や正しい使い方がわかること。
流ちょうさ: 学年相応のテキストを、正確に、適切な速さで、表現豊かに読む力。
読解: 様々な単語学習法、読解法、また他の技法（例：質問、想像、予測、関連づけ）を使い、学年レベルの書面テキストから意味を取り出し、組み立てる力。
学習要領 2: 文章を読み、理解し、応える。 **様々な媒体による様々な形態の文章（文学、情報、説得）に応じる。**
テキストに文章や絵で応える: 読んだ文書テキストから意味を見いだし、テキストに対する自分の意見や解釈、テキストで作者が読者を引きつけるために使っている技法についての見識を、文書や絵に描いて表現する力。
テキストに口頭で応える: 質問、予想、関連づけなどを使い、テキストの深い理解を念頭に、読書の前、間、後に教師とクラスメイトとの話し合いに参加する力。
話の再現: 物語の大事な部分を抜粋、話の前、間、後の出来事を自分の言葉で再現し、要約する力。
グループ討論: 読んだテキストについて、さらに深く理解することを焦点に、質の高い質問を考えだし、テキストを読む前、読んだ後にグループで話し合う力。
読書感想と読書態度: 自己の能力にあって飽きずに読み通せる本を選び、読書を楽しみ、読解力を向上させ、本をしっかり読むことに満足感を覚える力。
学習要領３: 他人とのコミュニケーション **自己の考えや体験を、文章、口頭、絵や図などで表現、発展、具体化する。**
文章によるコミュニケーション: 自分の気持ちや考えを伝えるために、書き言葉の特性や、物を書く過程を利用して、目的や読者に合った文章をつくる力。
口頭によるコミュニケーション: 学年相応のテキストや、観念的な話題について、自ら率先してグループ討論に参加し、自己の意見を主張し、その意見を裏付け、様々なデジタル媒体を使って討論を進める力。

学習要領4: 正しい英語を使う。 **口頭、書面、視覚コミュニケーションで、正しい英語を使う。**
高頻度語をつづる: 毎日の授業で頻繁に使われる言葉を、文脈に合わせ正しくつづる力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
共通のパターンを使って言葉を正しくつづる/不規則なサイトワード(一目見てすぐ読める基本単語)のいくつかを正しくつづる: 学年相応の綴りの法則を応用したり、サイトワードを使ったりしてクラスワークをする力。（例：リーダーとライターのノートブック、毎日のワードスタディーワーク）
学年相応に、大文字や句読点を適切に使う:日常のクラスワークで大文字や句読点を学年相応に適切に使う力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
校正: 適切な校正方を使って自己の作品を直す力。
手書き文字: 年齢相応の読みやすい字を書く力。

二年生成績表 － 算数

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義、学習要領が答えとなる質問は以下とおりです。

学習要領１: **数字の理解と運用**	**こんな質問に答えます:** 十進法が、分数、少数、百分率、割合にどのように関わっているか。
・１、２、５、１０、２５，１００ごとに１０００まで数える。 ・足し算と引き算の２０までのファクト(足し算の基本となる、２つの数の和が２０以下になる式と答え、それに対応する引き算の式)を知る。 ・ひとまとまりの硬貨の価値を計算する。 ・１０，０００までの整数を順番に並べ、比較する。 ・千の位までの桁の価値がわかる。 ・様々な方法を使って、簡単な足し算と引き算の文章問題を解く。 ・足し算と引き算のファクトファミリー（相互関係になる式）を作る。 ・トレードファースト法（それぞれの桁で引く数字が引かれる数字より大きい時、隣の桁から借り、引かれる数字に足してから引く方法）で２桁の引き算を解く。 ・分数の文章題を解く。 ・分数はある物を等分したものの集まりの名前であることを理解する。 ・ーより大きい/ーより小さい/ーと等しいを使って分数を比較する。 ・ボールパーク概算（大きな数字を計算する時に、それぞれの数字をある桁で四捨五入して、おおまかな数字にしてから概算する。例：234＋876＝　の答えは 230＋880=1110）をし、式にする。	
学習要領 2: **測定**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・アナログ時計とデジタル時計で 15 分刻みの時間を読み、書く。 ・摂氏とカ氏を使って温度計を読み、書く。 ・インチとセンチメートルを基本単位にして、おおよその長さを計る。 ・面積と周囲の長さを求める。 ・定規、巻き尺、メータ尺、ヤード尺を正しく使う。 ・暦を理解し、読み、使う。	
学習要領 3: **図形と空間**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・四角柱、円柱、四角錐、円錐、球などの立体形をみわける。 ・左右対称の形をみわける。 ・線分を書く。 ・平面の形をみわける。	
学習要領4: **データと統計**	**こんな質問に答えます：** データの収集、整理、表示が、情報の分析、適切な予想、情報に基づいた判断にどのように役立つか。
・棒グラフを読み、 簡単な質問をし、質問に答え、結論を出す。	

<table>
<tr><td colspan="2">・タリーチャート(𝍸を５として数を示すチャート)、表、棒グラフ、ラインプロット（X などの印の数で表すグラフ）など作るために、データを集め整理する。
・グラフを使って、一式のデータの中から最大値、最小値、最頻値、中央値などをみつける。
・ある事の起こる可能性を説明する確率の基本用語を使う。</td></tr>
<tr><td><u>学習要領5:</u>
代数</td><td><u>こんな質問に答えます：</u>
パターンと関数が、データや物理的現象を説明し、様々な問題を解決するのにどう役立つか。</td></tr>
<tr><td colspan="2">・簡単な規則に基づいた数字の集まりを作り、“どんな規則？”表を完成させる。
・数式を書く。
・+, -, =, < , >などの記号を使って、式を読み、書き、説明する。</td></tr>
</table>

二年生成績表　－　理科

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: 2.1: 物質は、観察可能な特徴で、液体、個体、気体に分けられる。
・液体、個体、気体を識別する特徴を比較対照する。
・物質の状態を基に、物を分類する。
・様々な個体の大きさを測り比較する。
・液体を様々な入れ物に入れて体積を計り比較する。
・様々な液体や粒状個体の流れる早さを比較する適切な実験法を考える。
学習要領2: 2.2:植物の形態はライフサイクルの過程で変化する。
・五感と簡単な道具を使い、様々な植物の根、茎、葉、花、種などを観察し説明する。（木、野菜、草など）
・花の部分を虫眼鏡を使って観察し、図で表す。
・植物のライフサイクルの中で、根、茎、花、種などが果たす役目を説明する。
・顕花植物が成長する様子を観察記録し、成長の過程を理解する。
・様々な植物が水、動物、風の力をかりて、種を散布しやすいように適合されているようすを比較対照する。
・何が種の発芽と成長に影響を与えるかということを調べる適切な実験を行う。
学習要領3: 2.3: 土質材料にはいろいろな用途に有効に使える、様々な特性がある。
・五感と簡単な道具（例:ふるい, 沈殿テスト）を使って、土を石のかけら、水、空気、植物の残骸などの構成成分に分ける。
・ 土を、色やつぶの大きさ（砂、沈泥、粘土）、 有機物の量（壌土）などに基づいて分類する。
・植物、動物、人間に与える土の重要性を説明する。
・観察で分かる空気、水、生き物、植物の残骸の存在を基に、土の質を査定する。
・様々な種類の土が植物の成長に与える影響について適切な実験を行い、観察の様子を基に結論を書く。

学習要領4:
2.4: 他の生物と同様に、人間も生存のために特別な栄養を必要としている。
・食物は炭水化物、タンパク質、脂肪の源であり、動物（人間を含め）はそれらを摂取しエネルギーに変えて成長存続する。
・食品を原料で分類し、一般の食品をその源である動物や植物と結びつける。
・土質を改良し作物成長を促す方法の例をあげる。(例:灌漑、肥料、有害生物防除)
・様々な文化による、 食物からの基本栄養の摂取方法を比較対照する。
・包装表示を参考に食品の栄養素を調べる。

二年生成績表　－　社会

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **社会科の知識:** 歴史や社会から学ぶ観念、テーマ、知識は、アメリカと世界の理解を推進するのに必要である。
目標（抜粋）: ・町や市の発展に貢献した、歴史上の出来事や人物が果たした役割を説明する。 ・自分の家族の歴史について調べ、クラスメートや地域の人の歴史と比較する。 ・自分の住んでいる町や隣の町を例に、自然の物と人が手を加えた物、郊外と田舎を比較対照する。 ・自分の町の安全と秩序を保つ為に、法律がどのような役目を果たしているか、また人々が選挙で政府を選ぶ様子などを説明する。 ・社会的機関とは何かを見極め、社会的機関がどのように地域社会の福祉に貢献しているか説明する。
学習要領2: **歴史/社会の学習に必要な読み書き能力:** 読み、書き、質問し、調査する力は、歴史や社会の情報を分析、評価、発表するために必要である。
目標（抜粋）: ・教師の指導を受けながら参考書や電子メディアを使って情報を集める。 ・地図の記号を理解し、説明する。 ・歴史上の出来事、人物、場所を文章で説明する。 ・現在もしくは過去の出来事、人物、場所について情報を集め発表する。 ・社会の話題について視覚的プレゼンテーションを作る。
学習要領3: **社会の一員としての自覚:立派な社会の一員として、歴史上又は時事問題を分析するには、情報、技術力、評価力などを総合させて使うことが必要である。**
目標（抜粋）: ・一つの出来事に対して、様々な違った意見がある理由を説明する。 ・人の感情がその人の置かれた立場によりどう影響されるか分析する。 ・地元での時事問題を認識し、学校やクラスでその解決を試みる。

二年生成績表　－　ワールドランゲージ

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: コミュニケーション（他人とのコミュニケーション）: 会話や手紙のやり取りに従事し、情報を収集、提供し、意見や感情を伝える 。
・（誘導されて）完全な文を使って話す。 ・ 学んだ語彙を使って、身近な話題を話す。 ・（誘導されて）日常生活や授業で意思の疎通をする。
学習要領2: コミュニケーション（話しかけられたこと、書かれたことを理解する): 様々な話題について、話し言葉や書き言葉を理解し解釈する。
・話されている内容のサポートと、反復のある、普通の速さの会話を理解する。
学習要領3: コミュニケーション（伝える): 様々な話題について、聴者や読者を対象に情報、概念、アイディアなどを伝える。
・パーソナルな、またはテーマに基づいた話題について, 個人やグループを対象に口頭で短い発表をする。（教師の誘導が必要/多少の躊躇がある）
学習要領4: 関連づけ（他の教科との関連づけ): 学習している言語を使って、他の教科の知識を広げ理解を深める。
・社会や理科に関係する話題を、特定の語彙を使って話す。 ・学習した言語を使い、教科分野の話題を広げたり詳しく説明したりする。

二年生成績表　－　音楽

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&4: 音楽の基本知識
・“タ”や“タ-ティ”（四分音符、ペアの八分音符）を使って、リズミカルな節や歌や韻文詩を詠唱したり、歌ったり、演じたりする。
・馴染みの、又は馴染みでないリズミカルな節や歌を“タ”や“タ-ティ”を使ってフレーズごとに口ずさみ、再現する。
・ “タ”や“タ-タ”を使ってリズミカルな節を読み、作り、書く（作曲する）。
・ “タ”や“タ-ト-テ”を使って、（付点四分音符、三連八分音符) リズミカルな節や歌や韻文詩を詠唱したり、歌ったり、演じたりする。
・符幹、符頭、符尾を正しく書く。
・馴染みの、又は馴染みでないリズミカルな節や歌を“タ”や“タ-ト-テ”を使ってフレーズごとに口ずさみ、再現する。
・短いメロディーを（言葉なしで）詠唱する。
・“ミ-レ-ド”を使って短いメロディーを詠唱する。
・“ミ-レ-ド”を使ってなじみのある短いメロディーや歌をフレーズごとに口ずさみ再現する。
・年齢相応の動きや、動きのテーマで音楽に応える。
・歌いながら、様々な年齢相応のフォークダンスの動きを演じ、ダンスをする。
学習要領2: 創作
・“タ”と“タ-ティ”を使って即興でリズミカルな節をつくり口ずさむ。
・“タ”と“タ-ティ”を使ってリズミカルな節を読み、作り、書く（作曲する）。
・“タ”と“タ-ト-テ”を使って、即興でリズミカルな節をつくり口ずさむ。
学習要領3 & 5: 対応と関連づけ
・年齢相応の動きと動きのテーマで、音楽に応える。
・体の動きのパターンと音楽の種類との関連を見きわめる。
・体の動きやダンスを、他の教科（算数、英語、社会、地理、体育、図画工作）、文化や日常の生活と関連づける。
・オーケストラの四つのファミリー（金管楽器、木管楽器、打楽器、弦楽器）を見分け、弦楽器ファミリーの個々の楽器全部を見分ける。
・弦楽器と打楽器を聞き分ける。
・クラスで聞いた音楽の情調を年齢相応の言葉で表現する。
・ エチケットを守り YP（ヤングピープルズ）コンサートに参加する。指揮者の役割について話し合う。

二年生成績表 － 体育

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **運動技能動と運動パターン**
目標（抜粋）:
・手や足を使い、停止したまま、もしくは移動しながら、物をコントロールする。
・ある決められた範囲内で、 ボールを上手で投げたり、受け止めたり、転がってきたボールを蹴ったりする。
・前転、体重移動などの基本的な体操技術を実演する。
・ティー（球座）の上で静止しているボールをたたく時、ボールに対し横に立ち、バットを正しく握る。
・ 障害物の周りを移動運動技能を使い、リズミカルなパターンを実演する。
学習要領2: 概念と手段を活用する。 運動の効用の認識。
目標（抜粋）:
・ 指示に従い運動実技を行い、他の人の意見や評価に応じる。
・ 他人とゲームや運動活動をする際に、ひとりで、もしくは他人と距離を保ちながら安全に動く。
・ 授業や授業以外で運動活動に参加する事による効用やプラスの感情を認識する。
・ 空間認識、移動運動/非移動運動技術、操作/非操作技術などの分野の運動に関する語彙を増やす。
学習要領3: 体力と運動への取り組み
目標（抜粋）:
・柔軟性、心肺耐久性、筋肉の力と耐久性を向上する様々な運動を行う。（例:腕立て伏せ、懸垂、腹筋、1/2マイルラン）
・運動が、健康な心臓を保ち生活の質を向上させるということを理解し、心拍数をあげる運動活動を行う。
・ウォームアップは運動する前の体を暖め、クールダウンは運動後の体の回復を促すということを説明する。
学習要領4: 社会的責任、運動を通じてのチーム作りと他人との共同活動
目標（抜粋）:
・ 他人の権利や感情を尊重し、協力しながらなおかつ一生懸命活動に参加する。
・ 個人もしくはグループ活動で、自主的に、決められた手順、安全手順を行う。
・ 個人もしくはグループである程度の時間にわたって活動する。（個人/団体練習）

二年生成績表　－　図画工作

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&2:意義のある表現をする/美術と交わる。
・風景画を描く。
・様々な文化からのシンボルやモチーフを使って作品をつくる。
・作品が、選択された文化のうち、どの文化から来たか見きわめる。（例:ガーナ、日本、メキシコ）
・自分の家族への思いを作品にする。
・リサイクルの材料を使って美術作品を作ることで、環境に対する配慮を示す。
学習要領3&4: 自分の考えを表現する/シンボルや表現を解釈したり作ったりする/美術教養を養う。
・使われている媒体で作品を語る。（例:写生、ペインティング、コラージュ、彫刻、印刷、写真、コンピューターアート）
・暖色と寒色を使う。
・加工過程を使い、彫刻を造る。
・何種類かの媒体（ワイヤー、紙、フォーム）を使って立体彫刻をつくる。
・美術の要素（線、形、色）が、美術のある特定の原則（反復、リズム、表面の質感）とどう関わり合い、使われたかを話し合う。
・前、中、後景の概念を表現している美術作品をつくる。（風景画、海景、都市の景観画）
学習要領5: 美術に応える。
・自己の作品を評価し、作品を上手に完成させたことに対しプライドを感じる。
・自己の作品に対する思いを明確に表現する。
・抽象画と写実画の違いを説明する。
・公平な態度でクラスメイトのコメントを聴き、対応することで、他の人の視点を尊重する。

三年生

三年生成績表　－　英語

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領 1: 読解法 **テキストの中の言葉を認識し、流暢に読み、自己チェック、自己修正を行い、理解するための読解技術を応用する。**
音声学 & ワードスタディー: 音声学の基本を理解応用し、音節や多文字パターンを認識することで、文字数の多い、多音節の言葉を読む。
高頻度語認識と語彙: 高頻度語認識とは、規則、不規則動詞を含めた、学年レベルの語彙がわかること、語彙とは言葉の意味や正しい使い方がわかること。
流ちょうさ: 学年相応のテキストを、正確に、適切な速さで、表現豊かに読む力。
読解: 様々な単語学習法、読解法、また他の技法（例：質問、想像、予測、関連づけ）を使い、学年レベルの書面テキストから意味を取り出し、組み立てる力。
学習要領 2: 文章を読み、理解し、応える。 **様々な媒体による様々な形態の文章（文学、情報、説得）に応じる。**
テキストに文章や絵で応える: 読んだ文書テキストから意味を見いだし、テキストに対する自分の意見や解釈、テキストで作者が読者を引きつけるために使っている技法についての見識を、文書や絵に描いて表現する力。
テキストに口頭で応える: 質問、予想、関連づけなど使い、テキストの深い理解を念頭に、読書の前、間、後に教師とクラスメイトとの話し合いに参加する力。
グループ討論: 読んだテキストについて、さらに深く理解することを焦点に、質の高い質問を考えだし、テキストを読む前、読んだ後にグループで話し合う力。
読書感想と読書態度: 自己の能力にあって飽きずに読み通せる本を選び、読書を楽しみ、読解力を向上させ、本をしっかり読むことに満足感を覚える力。

学習要領３:他人とのコミュニケーション **自己の考えや体験を、文章、口頭、絵や図などで表現、発展、具体化する。**
文章によるコミュニケーション: 自分の気持ちや考えを伝えるために、書き言葉の特性や、物を書く過程を利用して、目的や読者に合った文章をつくる力。
口頭によるコミュニケーション: 学年相応のテキストや、観念的な話題について、自ら率先してグループ討論に参加し、自己の意見を主張し、その意見を裏付け、様々なデジタル媒体を使って討論を進める力。
学習要領4: 正しい英語を使う。 **口頭、書面、視覚コミュニケーションで、正しい英語を使う。**
高頻度語をつづる: 毎日の授業で頻繁に使われる言葉を、文脈に合わせ正しくつづる力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
共通のパターンを一般化して言葉をづづる: 学年相応のつづりのパターンを日常のクラスワークで応用する力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
学年相応に、大文字や句読点を適切に使う: 日常のクラスワークで大文字や句読点を学年相応に適切に使う力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
校正: 適切な校正方を使って自己の作品を直す力。
手書き文字: 年齢相応の読みやすい字を書く力。

三年生成績表　－　算数

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義、学習要領が答えとなる質問は以下とおりです。

学習要領１: **数字の理解と運用**	**こんな質問に答えます:** 十進法が、分数、少数、百分率、割合にどのように関わっているか。
・1,000,000 までの整数を読み、書き、比較する。	
・三桁四桁の整数に桁の概念を応用する。	
・三年生の足し算基本ファクト（２０までの足し算）目標を達成する。	
・三年生の引き算基本ファクト（２０までの引き算）目標達成する。	
・かけ算の文章題を解く。	
・整数の読み方を書く。	
・金額を計算し比較をする。	
・一桁や複数の桁の足し算や引き算を、見積もって、解く。	
・１００分の１までの少数を読み、書き、並べ、比較する。	
・等分問題を解く。	
・基本ファクトを利用して難しい計算式を簡単に解く。	
・与えられた分数の等分数を探す。	
・分数のそれぞれの部分がわかる。	
・分数を比較し順に並べる。	
・３年生の基本ファクト目標（１０までのかけ算）を達成する。	
・複数の桁のかけ算を解く。	
・かけ算と割り算の文章題を見積もり、解く。	
・分数で示された部分を示す。	
学習要領 2: **測定**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・アナログとデジタル時計で時間を読み書く。（一分まで）	
・線分の長さを見積もり、½ センチ、½ インチ単位まで計る。	
・長方形の周りの長さと面積を求める。	
・長さ、重さ、量を適切な測定単位を使って測る。	
学習要領 3: **図形と空間**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・平面図系と立法図形を見分け、説明し、作り、比較する。	
・線分（平行線、交差線）射線などを見分け書く。	
・対称線を書く。	
・直角と正三角形を識別する。	

学習要領4: **データと統計**	**こんな質問に答えます：** データの収集、整理、表示が、情報の分析、適切な予想、情報に基づいた判断にどのように役立つか。
・基本的な確率用語を使う。	
・簡単な実験の結果を推測する。	
・データを使い度数分布表を完成させ、ラインプロットを作る。	
学習要領5: **代数**	**こんな質問に答えます：** パターンと関数が、データや物理的現象を説明し、様々な問題を解決するのにどう役立つか。
・“箱と矢印”パズルを解く。	
・+, -, x, ÷, =, <, >を使って式を読み、書き、解き、説明する。	
・ある規則で並んだ数字のパターンを継続する。	
・括弧を使った問題を解く。	

三年生成績表　－　理科

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: 3.1: 簡単なテストで物質の持つ様々な特性がわかる。
・液体、個体、気体の特性を比較対照する。
・液体、個体、気体はすべて物質の状態であり、場所をとり、重さがあるということことを説明する。
・ある物質が溶解するか、水に沈むか浮くか、熱や電気を通すかを調べるテストを行う。
・物質状態も含めて、観察によって分かる特性で物を分類する。
・様々な物質の吸収性を調べる簡単なテストを考案、実施、結果から結論を導き、似たようなテストが違う結果を導くかもしれない理由を分析する。
・凍結、溶解、蒸発、凝固など、ある物質がひとつの状態から別の状態に変化する過程で、加熱と冷却が果たす役割を説明する。
学習要領2: 3.2: 生物は基本ニーズを満たせる環境のみで、生息し繁殖することができる。
・動物や植物（絶滅した動物や植物も含む）が食物、水、太陽の光を得たり、つがいの相手をみつけたり、生息する環境から身を守ったりするための形態と習性を比較対照する。
・生息条件が厳しい場所で動物が生きて行く為に、冬眠、休眠、渡りなどの行動がどのように役立つかを説明する。
・カモフラージュする動物の具体例をあげ説明する。
・特定の動物の順応性が効果的かどうか評価する。
・順応を行う生物とその環境を自分でデザインして作る。

学習要項3: 3.3: 土質は様々な物理的特性、科学的特性がある。
・石とミネラルを識別する。
・五感と簡単な測定道具を使い、様々な石についてのデータを集め、観察結果を基に分類する。（例:形、大きさ、色、重さ、目に見える模様など）
・ 火成岩、堆積岩、変成岩が形成される条件をノンフィクションの本を要約して比較対照する。
・石の特性を観察分析し（例:結晶の大きさや層など）、その石が形成された状況を推測する。
・様々なミネラルの特質を調べる簡単なテストを行い（例:色、臭い、筋、透明度、堅さ、磁気のあるなし）、結果を表にまとめ、その結果と他の資料を参考に、どのミネラルであるかを判断する。
・様々な石の特定の目的に対する有効性を査定する。（例:建物、歩道、石垣、銅像、石碑）
学習要項4: 3.4: 地球上の資源はすべての生命物への供給源だが、資源には限りがあるので保護されるべきである。
・人々が生活の向上のために、化石燃料、木、水、土、石などといった地上の資源を天然資源として活用する方法を説明する。
・ノンフィクションを要約し、人が電気や他の製品（紙やコンクリートなど）を生産する為にテクノロジーを使って自然資源を得、利用するようすを説明する。
・電気を起こし、車を動かし、家を暖める源となる、再生可能もしくは再生不可能な資源の利点と不利点を説明する。
・ 暖かいもしくは冷たい物や空間を一定の温度に保つ、様々な断熱材の有効性を査定する簡単な実験を行う。
・一定の期間に、個人、もしくは団体が使用した天然資源（水や紙）の量を数字を使って概算測定し、表に表す。
・天然資源保護の一貫として行う節約、再使用、リサイクル、置き換えなどの、環境から見た利点と不利点を評価する。

三年生成績表　－　社会

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **社会科の知識:** 歴史や社会から学ぶ観念、テーマ、知識は、アメリカと世界の理解を推進するのに必要である。
目標（抜粋）:
・歴史上の人物の周りで起こった事件の重大さを説明する。
・地域と地方の歴史上の出来事の関わり合いを調べ理解する。
・人が環境に与えた影響を評価し、それについて発表をする。
・一市民としての義務と権利を見極め、自分の町の行政と市民の関係と比べる。
・ある民族を特定する要素を説明する。
学習要領2: **歴史/社会の学習に必要な読み書き能力:** 読み、書き、質問し、調査する力は、歴史や社会の情報を分析、評価、発表するために必要である。
目標（抜粋）:
・印刷もしくは印刷されていない資料から情報を集め、その内容に関わる質問に答える。
・実話また物語に見られる、様々な視点の違いを説明する。
・オーガナイザーを利用し、収集した情報を引用源も含めて整頓し、文章作品をつくる。
・社会の授業の話題についての情報を発表し、質問に対して明確に流暢に答える。
・大事な出来事と、それに関連のある情報集め、町の年表や地図を作る。
学習要領3: **社会の一員としての自覚:立派な社会の一員として、歴史上又は時事問題を分析するには、情報、技術力、評価力などを総合させて使うことが必要である。**
目標（抜粋）:
・異なった物の見方を証拠を用いて分析する。
・時事問題について、人々が持っているかもしれない様々な意見を予想する。
・時事問題を認識し、その解決へ向けての計画をたてる。

三年生成績表　－　ワールドランゲージ

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: コミュニケーション（他人とのコミュニケーション）: 会話や手紙のやり取りに従事し、情報を収集、提供し、意見や感情を伝える 。
・口頭と文章で完成文を使って意思疎通する。
・身近な話題に学んだ語彙を使う。
・（必要であれば誘導されて） 日常生活や授業で意思の疎通をする。
学習要領2: コミュニケーション（話しかけられたこと、書かれたことを理解する): 様々な話題について、話し言葉や書き言葉を理解し解釈する。
・ 話されている内容のサポートがあれば、学んだばかりの語彙や観念に関する質問や命令なども含んだ、普通の速さの会話を理解できる。
・ 馴染みのある内容の馴染みのある話題についての文章を解釈し理解する。
学習要領 3: コミュニケーション（伝える): 様々な話題について聴者や読者に情報、概念、アイディアなどを伝える。
・パーソナルな、またはテーマに基づいた話題について, 個人やグループを対象に口頭で短い発表をすることができる。 （場合によっては教師の誘導が必要/多少の躊躇がある。）
・過去に学んだ語彙や文法、新しく学んだ語彙や文法を使い、独自の文章を書く。
学習要領4: 関連づけ（他の教科との関連づけ): 学習している言語を使って、他の教科の知識を広げる。
・社会や理科に関係する話題を特定の語彙を使って話す。
・学習した言語を使い教科分野の話題を広げたり詳しく説明したりする。

三年生成績表　－　メディア/テクノロジー

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **調査/情報を自在に行う/扱う:情報を検索、評価、総合化する。**
・オンラインカタログを使い、キーワード、著者、題名、内容などを使って資料を選ぶ。
・メディアセンターで必要な資料が何処にあるかわかる。
・本の部分の名称がわかる。（表紙、背文字、表題紙、著者、イラストレーター、目次、用語解説、索引）
・スーパー３（計画、実践、見直し）を使って調査質問に答える方法を考える。
・複合媒体技術（パワーポイント）を使い情報を整理し、まとめ、情報を発表する。
学習要領2: **コミュニケーションとイノヴェーション:デジタルや視覚媒体を使って情報を得る。**
・ストーリーボードや他の図形オーガナイザーを使って複合媒体プロジェクトを計画する。
学習要領 3: **テクノロジーの操作と概念:テクノロジーを使い、問題を解決し、学び、生産性を高める。**
・ハードウエアーとソフトウエアーの基本的な作動機能を使う。
・ワードプロセッサーを使って簡単な課題を書き、構成し、挿絵を入れ、印刷、保存する。
・キーボード上の文字、数字、記号を的確迅速に使える。
・初歩のデーターベースや集計表を使う。
・指定されたウエブサイトをメニューやアイコンを使って訪ねる。
学習要領 4: **デジタルの正しい使用:法的、道徳的責任をもって、テクノロジーや情報源を利用する。**
・資料を適切に扱えることを示す。
・引用先を表記することで知的財産の使用に関するガイドラインや規則を守り尊重する。
・オンラインの適切で安全な使用法を認識し、話し合い、実践する。
学習要領5: **文学鑑賞:自己成長、単独学習、娯楽のために、幅広い読書をする。**
・自己の能力や興味にあった適切な資料を選択する。
・様々な文学のジャンルを理解し認識する。
・受賞本と受賞理由を認識する。

三年生成績表 － 音楽

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&4: 音楽の基本知識
・“タ”や“タ-ト-テ”を使って、（付点四分音符、三連八分音符) リズミカルな節や、歌や、韻文詩を、詠唱したり、歌ったり、演じたりする。
・馴染みの、又は馴染みでないリズミカルな節や歌を“タ”や“タ-ト-テ”を使ってフレーズごとに口ずさみ、再現する。
・“タ”や“タ-ト-テ”を使ってリズミカルな節を読み、作り、書く（作曲する）。
・符幹、符頭、符尾を正しく書く。
・“タ”,“タ-ト-テ”,“タ-ティ”や階名を使って、リズミカルな節を詠唱したり、歌や詩を、歌ったり、演じたりする。
・馴染みの、又は馴染みでないリズミカルな節や歌を“タ”、“タ-ト-テ”、“タ-ティ”、階音（ミ-レ-ド）を使ってフレーズごとに口ずさみ、再現する。
・“タ”、“タ-ト-テ”、“タ-ティ”を使ってリズミカルな節を読み、作り、書く（作曲する）。
・ミ-レ-ドを使って短いメロディーを歌う。
・ロ-イ-トを使ってメロディーや音楽を詠唱、リコーダーで演奏する。
・馴染みの、又は馴染みでないリズミカルな節や歌をミ-レ-ドで歌い、ロ-イ-トで演奏 、再現する。
・ミ-レ-ドで歌ったり、ロ-イ-トで演奏したりして、メロディーを読み、書き、作る。
・年齢相応の動きや動きのテーマで音楽に応える。
・歌いながら、年齢相応のフォークダンスしたり、ダンスの一部の動きを演じたりする。
学習要領2: 創作
・“タ”と“タ-ト-テ”を使って即興で短いメロディーをつくる。
・“タ”、“タ-ト-テ”や階名を使ってリズミカルな節を読み、作り、書く（創作する）。
・“タ”、“タ-ト-テ”、“タ-ティ”を使ってリズミカルな節を即興で作る。
・“タ”、“タ-ト-テ”、“タ-ティ”を使ってリズミカルな節を読み、作り書く（創作する）。
・リズミカルな節をミ-レ-ドを使い即興で作る。
・短いメロディーをロ音、イ音、ト音を使い、即興で作り、リコーダーで演奏する。
・ミ-レ-ドで歌ったり、ロ-イ-トで演奏したりして、短いメロディーを読み、書き、作る。
学習要領 3 & 5: 応答と関連づけ
・年齢相応の動きや動きのテーマで音楽に応える。
・動きのパターンと音楽の種類との関連を理解する。
・動きやダンスと、他の教科（算数、英語、図画工作、社会、地理、体育）、文化、日常生活とを関連づける。
・オーケストラを構成する四つの楽器ファミリーを見分け、打楽器と木管楽器を聞き分ける。
・クラスで聞いた音楽の情調を年齢相応の言葉で表現する。
・ エチケットを守り YP（ヤングピープルズ）コンサートに参加する。指揮者の役割について話し合う。

三年生成績表 － 体育

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **運動技能動と運動パターン**
目標（抜粋）:
・スピード、高さ、方向などを変えながら移動運動技能を上手にを示す。（例:サッカーゲーム）
・前転、後転、体重移動、跳馬上スクワットなどの基本的な体操技術を実技する。（例:腕立側転、逆立ち）
・ある決められた範囲内で、ボールを上手で投げたり、受け止めたり、ドリブルしたり、手で打ったりする。
・ダンス、サッカー、野球など、特定のスポーツや活動に運動技能を応用する。
学習要領2: 概念と手段を活用する。 運動の効用の認識。
目標（抜粋）:
・自分の技術を向上させるために先生やクラスメートからの意見を参考にする。
・技術の向上が運動や活動をさらに楽しいものにすることを説明する。
・攻撃する人と守備をする人の役割を識別し、攻撃、守備双方に関わる基本的な作戦を理解する。。
・クラスで学んだスポーツの基本ルールを理解する。
学習要領3: 体力と運動への取り組み
目標（抜粋）:
・健康的な生活を生涯にわたり継続することの大切さを理解する。
・健康的な生活を向上もしくは継続するための目標や達成プラン（自分の生活を顧みて）又、個人的な体力増進の目標をたてる。
・4大体力要素（柔軟さ、筋肉力、筋肉耐久性、心肺耐久性）を向上させるための様々な運動に関する知識と技術力があることを示す。
・体力テストを行い、その結果から自分の体力についての理解を深める。
学習要領4: 社会的責任、運動を通じてのチーム作りと他人との共同活動。
目標（抜粋）:
・試合中のもめ事を平和的に解決する。
・ゲームの規則や行動規範に反した時には罰則を課せられることがあることを理解する。
・個人によって運動能力や技術力は違うということを理解、尊重する。
・必要に応じてチームワークを実践する。

三年生成績表　－　図画工作

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&2:意義のある表現をする/美術と交わる。
・美術作品は様々な物をよりどころとして創作されている。
・違った時代や文化を背景にする美術家が、似た様なテーマを追求し表現している理由を分析する。
・話と物語芸術（話を美術を使って伝える）の関係を説明する。
・美術媒体の技術と、アイディアの表現法に関わり合いを持たせる。
・授業で扱った美術家の作品と自分の作品を関連づける。
・自分の作品に美術の原則を導入し、その原則をどう使ったか説明する。
・地域で芸術を鑑賞できたり演じたりできる場所を見つける。
学習要領3&4: 自分の考えを表現する/シンボルや表現を解釈したり作ったりする/美術教養を養う
・美術媒体によって作品を分類する。
・様々な美術媒体の相違点と疑似点を説明し認識する。
・事前のスケッチを通してアイディアを練る。
・自己体験や独自のアイディアをもとに作品を考え造る。
・始めの準備段階から作品が完成するまでの間に、作品の内容がどのように発展したか説明する。
・美術の要素を、表現したい感情やアイディアとどう関わらせ、つながりを持たせるか考える。
・様々な文化のモチーフやテーマの中でのシンボルやイメージの使われ方を認識する。
・平面の作品で距離感を出す技術を応用する。
・立体の作品の作成に、追加したり取り除いたりす技法を応用する。
学習要領5: 美術に応える。
・様々な方法で美術作品に応える。（例:書く、話し合う、視覚解釈する）
・口頭もしくは書面で適切な美術用語を使えることを示す。
・口頭もしくは書面での意見をもとに作品に手を入れたり修正したりする。
・様々な書面や口頭での応答を通して作品を説明する。
・美術作品は様々な目的によって造られることを認識する。
・抽象主義と現実主義の作品の違いを説明する。

四年生

四年生成績表　－　英語

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領 1: 読解法 **テキストの中の言葉を認識し、流暢に読み、自己チェック、自己修正を行い、理解するための読解技術を応用する。**
音声学 & ワードスタディー: 音声学の基本を理解応用し、音節や多文字パターンを認識することで、文字数の多い、多音節の言葉を読む。
高頻度語認識と語彙: 高頻度語認識とは、規則、不規則動詞を含めた、学年レベルの語彙がわかること、語彙とは言葉の意味や正しい使い方がわかること。
流ちょうさ: 学年相応のテキストを、正確に、適切な速さで、表現豊かに読む力。
読解: 様々な単語学習法、読解法、また他の技法（例：質問、想像、予測、関連づけ）を使い、学年レベルの書面テキストから意味を取り出し、組み立てる力。
学習要領 2: 文章を読み、理解し、応える。 **様々な媒体による様々な形態の文章（文学、情報、説得）に応じる。**
テキストに文章や絵で応える: 読んだ文書テキストから意味を見いだし、テキストに対する自分の意見や解釈、テキストで作者が読者を引きつけるために使っている技法についての見識を、文書や絵に描いて表現する力。
テキストに口頭で応える: 質問、予想、関連づけなど使い、テキストの深い理解を念頭に、読書の前、間、後に教師とクラスメイトとの話し合いに参加する力。
グループ討論: 読んだテキストについて、さらに深く理解することを焦点に、質の高い質問を考えだし、テキストを読む前、読んだ後にグループで話し合う力。
読書感想と読書態度: 自己の能力にあって飽きずに読み通せる本を選び、読書を楽しみ、読解力を向上させ、本をしっかり読むことに満足感を覚える力。
学習要領 3 : 他人とのコミュニケーション **自己の考えや体験を、文章、口頭、絵や図などで表現、発展、具体化する。**
文章によるコミュニケーション: 自分の気持ちや考えを伝えるために、書き言葉の特性や、物を書く過程を利用して、目的や読者に合った文章をつくる力。
口頭によるコミュニケーション: 学年相応のテキストや、観念的な話題について、自ら率先してグループ討論に参加し、自己の意見を主張し、その意見を裏付け、様々なデジタル媒体を使って討論を進める力。

学習要領4: 正しい英語を使う。 **口頭、書面、視覚コミュニケーションで、正しい英語を使う。**
高頻度語をつづる: 毎日の授業で頻繁に使われる言葉を、文脈に合わせ正しくつづる力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
共通のパターンを一般化して言葉をづづる: 学年相応のつづりのパターンを日常のクラスワークで応用する力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
学年相応に、大文字や句読点を適切に使う: 日常のクラスワークで大文字や句読点を学年相応に適切にう力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
校正: 適切な校正方を使って自己の作品を直す力。
手書き文字: 年齢相応の読みやすい字を書く力。

四年生成績表　－　算数

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義、学習要領が答えとなる質問は以下とおりです。

学習要領１: **数字の理解と運用**	**こんな質問に答えます:** 十進法が、分数、少数、百分率、割合にどのように関わっているか。
・整数を読む。	
・四年生の基礎ファクト目標を達成する。（２０までの足し算と引き算）	
・複数の桁の足し算と引き算を解く。	
・百分の一、千分の一の位までの少数を読み、書き、比較する。	
・見積もりを使い、整数と少数の足し算と引き算を解く。	
・小数第一位、第二位までの足し算、引き算を解く。	
・十億までの数字を読み、書き、比較する。	
・様々な方法を使って複数の桁のかけ算を解く。	
・分母が１０もしくは１００の分数を、少数もしくは百分率で表す。	
・分数の大きさを比較し、順番に並べ、比較の仕方を説明する。	
・四年生の基礎ファクト目標（かけ算と割る数が１０までの割り算）を達成する。	
・分数と少数の問題を見積もって解く。（足し算、引き算、等しい/等しくない分母)	
・ひとつの整数の分数を見つける。（例：X の二分の一は何か)	
・正の整数と負の整数を足す。　１００からマイナス１００までの整数を比較する。	
学習要領 2: **測定**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・線分を書き、1/2インチを、もしくは1/2センチを基準にその線分の長さを計る。	
・角度を予想し計る。	
・90度以上、もしくは以下の角を書く。	
・座標の第一象限に点を入れる。	
・少数を使って、メートルを読む。	
・1センチ四方の立方体の集まりの体積を出す。	
学習要領 3: **図形と空間**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・多角形の性質を説明する。	
・線分、線、斜線を見て、名称を言い、表示し、描く。	
・角、三角、四角を見て、名称を言い、表示し、描く。	
・長方形、平行四辺形、三角形の面積と周りの長さを求める。	
・対称線、投射線、図形の回転と平行移動を理解する。	
・幾何学的立体の特性をいう。	

学習要領4: **データと統計**	**こんな質問に答えます：** データの収集、整理、表示が、情報の分析、適切な予想、情報に基づいた判断にどのように役立つか。
・ひとまとまりのデータの中から最大値、最小値、範囲、中央値、最頻値を求める。	
・ひとまとまりの データの中から棒グラフやランドマーク（平均、中央値、最頻値、範囲など）を使って答えを求める。	
・データを集め整理したり、与えられたデータを使ってチャートや表やグラフをつくったりする。	
・確率の基本用語を使い、物事の起こる可能性を説明する。	
・もの事の起こる確率を分数で表す。	
・データー表を読み結論をだす。	
学習要領5: **代数**	**こんな質問に答えます：** パターンと関数が、データや物理的現象を説明し、様々な問題を解決するのにどう役立つか。
答えが変数であらわされた式を解く。	
“規則は何？”表を完成する。	
足し算の変換法則と結合法則を説明し、応用する。	
かけ算の変換法則と分配法則を説明し、応用する。	
パターンを説明して応用し、問題を解く。	
括弧をいれて式を正しく書く。	

四年生成績表　－　理科

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領 1: 4.1: 物の位置と動きは、押したり引いたりすることで変えられる。
・力が物を動かしたり、止めたり、動きの速さや方向を変えたりすることを実演する。
・測定器や標準測定単位を使って、おもちゃの車、ボール、ロケットや飛行機のモデルといった一般的な物の動きを、位置、スピード、方向などを焦点に比較対照する。
・質量や、加えられている力の大きさと、その物の動きとの関わり合いを調べるテストを考案実施する。
・空気摩擦や別の物質との接触によって起こる摩擦が、物の動きに与える影響を説明する。
・質量が動きに与える影響を予測する。
学習要領2: 4.2: 生命体のすべてが住んでいる環境に存在する生物や無生物と関わり合って生存している。
・一つの生態系のなかで生物と無生物がお互いに関わり合いながら生存している例をあげる。
・地上と水中食物連鎖において、太陽のエネルギーが生産者(植物)に入り、消費者（動物）の中に移動する様子を表した図を描く。
・一つの生態系の中の、生産者、消費者、草食動物、肉食動物、雑食動物、分解生物の関わり合いを記録するための、簡単な実験を考案実施する。
・食物網を分析し、一つの生態系の中で、植物から様々な動物へエネルギーが移動する様子を説明する。
・ 生態系のなかで自然に起こる変化と人工的に起こされた変化を識別する。
・干ばつや森林破壊などの環境変化が生命体のコミュニティーに与えるかもしれない影響を予測する。

学習要項3: 4.3: 水は地形の形成に大きな役割を果たしている。
・蒸発、凝固、降雨を通して地球と大気中の水の循環における熱のエネルギー（加熱と冷却）の役割を説明する。
・降雨によってもたらされた水が地形の高い所から低い所に、川や水路を通って流れる様子を模型を使って説明する。
・陸、海岸、川や水路などの地形を、水の流れ（水流や波）が変えていくようすを調べる簡単な実験を考案実施する。
・調査可能な質問を考え、簡単な道具と測定器を使って、浸食に影響を与える要因に関するデータを集める。（例: 地質、水流の量、傾斜のようす、地形を覆っている植物の有無など）
学習要項4: 電気エネルギーと磁気エネルギーは移動、変換できる。
・電気エネルギーが熱、光、音、物を動かす力に変わる閉回路と開回路を作る。
・開回路と閉回路を表す図を作成し、回路を構成する物と、その設定の仕方を説明する。
・表示された回路設定で電気がつくかどうかを予測する。
・伝導性を調べる方法を考案し、データを分析して、金属は電気を通し、非金属は電気を通さないという結論を導く。
・電気と関わる磁気効果を観察し、電磁石の強さに影響を与える要因を調べる。
・磁石に引きつけられる物質について説明する。
・磁石を使って物を動かしたり、個体の混合物を分別したりする方法を考える。
・磁石が別の磁石に反応する様子を調べ、データを分析し、N極とS極の相互作用関係のパターンを理解する。
・磁石の使用例をあげる。（例:モーター、ジェネレーター、家庭用品など）

四年生成績表　－　社会

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **社会科の知識:** 歴史や社会から学ぶ観念、テーマ、知識は、アメリカと世界の理解を推進するのに必要である。
目標（抜粋）:
・植民化がネイティブアメリカンにもたらした影響を含み、歴史上の人物、団体、出来事などがコネチカットに与えた影響を分析し認識する。
・ヨーロッパ人による遠征とコネチカット植民地化に貢献した要因を説明する。
・長期に渡るコネチカット移住のパターンを調べ説明する。
・どのように 州政府組織が基本的なサービスを提供し、憲法が政府の構成に関わっているか説明する。
・責任感のある有能な市民であるための一番大事な特性と、コネチカットで法律を作成し執行するまでの過程を説明する。
学習要領2: **歴史/社会の学習に必要な読み書き能力:** 読み、書き、質問し、調査する力は、歴史や社会の情報を分析、評価、発表するために必要である。
目標（抜粋）:
・一次資料と二次資料を見分け、それぞれの資料から得た情報を要約する。
・原因と結果、事実と意見、本旨とそれを支える列証をそれぞれ識別し、テキストを解釈する。
・既存の概要やオーガナイザーなどからの情報を使い、証拠を使いながら歴史上の出来事を説明した文書をつくる。
・社会の話題について口頭で情報を提供したり質問に答えたりする。
・適切な社会科の情報を載せた、正確なチャートやグラフを描く。
学習要領3: **社会の一員としての自覚:立派な社会の一員として、歴史上又は時事問題を分析するには、情報、技術力、評価力などを総合させて使うことが必要である。**
目標（抜粋）:
・ある出来事に対する様々な意見の根拠を評価する。
・歴史上の出来事に関わった人々の様々な意見や感情の根拠となる資料を引用する。
・時事問題の解決策を提供している、適切な情報源からの記事を分析する。

四年生成績表　－　ワールドランゲージ

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: コミュニケーション（他人とのコミュニケーション): 会話や手紙のやり取りに従事し、情報を収集、提供し、意見や感情を伝える 。
・口頭と文章で完成文を使って意思疎通する。
・身近な話題に、学んだ語彙や独自の文章を使う。
・躊躇しながらも日常生活や教科内容などについて話す。
学習要領2: コミュニケーション（話しかけられたこと、書かれたことを理解する): 様々な話題について、話し言葉や書き言葉を理解し解釈する。
・話されている内容についてのサポートがあれば、学んだばかりの語彙や観念を焦点においた質問や命令を含む、普通の速さで話されている会話が理解できる。
・馴染みのある内容の馴染みのある話題についての文章を解釈し理解する。
学習要領 3: コミュニケーション（伝える): 様々な話題について聴者や読者に情報、概念、アイディアなどを伝える。
・多少の躊躇はあっても、パーソナルな話題やテーマに基づいた話題について、完成文を使ってグループや個人を対象に口頭発表する。
・既に学習したり、新しく学んだりした語彙や文法を使って、短い独自の作品をつくる。
学習要領4: 関連づけ（他の教科との関連づけ): 学習している言語を使って、他の教科の知識を広げる。
・社会や理科に関係する話題を特定の語彙を使って話す。
・学習した言語を使い教科分野の話題を広げたり詳しく説明したりする。

四年生成績表　－　メディア/テクノロジー

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。。

学習要領1: **調査/情報を自在に行う/扱う:** 情報を検索、評価、総合化する。
・オンラインカタログを使い、キーワード、著者、題名、内容などを使って資料を選ぶ。
・メディアセンターで必要な資料が何処にあるかわかる。
・本の部分の名称がわかる。（表紙、背文字、表題紙、著者、イラストレーター、目次、用語解説、索引）
・ビッグ６（質問、計画、検索/評価、統合、意思疎通、熟考）を使って調査質問に答える方法を考える。
・複合媒体技術（パワーポイント）を使い情報を整理し、情報を発表する。
学習要領2: **コミュニケーションとイノヴェーション:** デジタルや視覚媒体を使って情報を得る。
・ストーリーボードや他の図形オーガナイザーを使って複合媒体プロジェクトを計画する。
学習要領 3: **テクノロジー操作と概念:** テクノロジーを使い、問題を解決し、学び、生産性を高める。
・ハードウエアーとソフトウエアーの基本的な作動機能を使う。
・ワードプロセッサーを使って簡単な課題を書き、構成し、挿絵を入れ、印刷、保存する。
・キーボード上の文字、数字、記号を的確迅速に使える。
・初歩のデーターベースや集計表を使えることを示す。
・指定されたウエッブサイトにメニューやアイコンを使っていける。
学習要領 4: **デジタルの正しい使用:** 法的、道徳的な責任をもって、テクノロジーや情報源を利用する。
・資料を適切に扱えることを示す。
・引用先を表記することで知的財産の使用に関するガイドラインや規則を守り尊重する。 (4.1).
・オンラインの適切で安全な使用法を認識し、話し合い、実践する。 （例:AUP 利用規定）
学習要領5: 文学鑑賞**:** 自己成長、単独学習、娯楽のために幅広い読書をする。
・自己の能力や興味にあった適切な資料を選択する。
・様々な文学のジャンルを理解し認識する。
・受賞本と受賞理由を認識する。

四年生成績表　－　音楽

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&4: 音楽の基本知識
・“ド-レ-ミ-ソ”を使って短いメロディや歌を繰り返す。
・馴染みのある、もしくは馴染みのない歌や短いメロディを,“ド-レ-ミ-ソ”を使って再現。
・ヘ調、ト調で、“ド-レ-ミ-ソ”と音名を使って、短いメロディを読み、作り、書く（作曲）。
・二分音符、 四分音符、 四分休止符、二連八分音符や階名を使った短いメロディ、歌、韻文詩を歌ったり、詠唱したり、口ずさんで再現したりする。
・二分音符、 四分音符、 四分休止符、二連八分音符を使い、リズミカルな節を読み、作り、書く（作曲）。
・付点四分音符、三連八分音符、 四分音符、 八分音符、付点四分休符や階名を使った短いリズミカルな節、歌、韻文詩を 歌ったり、詠唱したり、口ずさんで再現したりする。
・付点四分音符、三連八分音符、四分音符、八分音符、付点四分休止符を使ったリズミカルな節を読み、作り、書く（作曲）。
・年齢相応の体の動きと、動きのテーマを使って、音楽に応える。
・歌いながら年齢相応のフォークダンスや、フォークダンスの一部の動きを演じる。
学習要領2: 創作
・“ド-レ-ミ-ソ”を使って短いメロディーを即興で作り口ずさむ。
・ヘ長、ト長で “ド-レ-ミ-ソ”と、それと対応する音名を使って短いメロディー読み、作り、書く（作曲）。
・二分音符、四分音符、 四分休止符、二連八分音符を使うリズミカルな節を即興でつくり口ずさむ。
・二分音符、四分音符、 四分休止符、 二連八分音符を使ったリズミカルな節を読み、作り、書く（作曲）。
・付点四分音符、三連八分音符、 四分音符、八分音符、付点四分休止符を使ったリズミカルな節を即興で作り口ずさむ。
・付点四分音符、三連八分音符、四分音符、八分音符、付点四分休止符を使ったリズミカルな節を読み、作り、書く（作曲）。
学習要領3 & 5: 応答と関連づけ
・ 年齢相応の動きや動きのテーマで音楽に応える。
・ 動きにパターンを見つけ、そのパターンと音楽の種類を関連づける。
・ 動きやダンスと、他の教科（算数、英語、図画工作、社会、地理、体育）、文化、日常生活とを関連づける。。
・オーケストラを構成する四つの楽器ファミリーと、それぞれのファミリーを構成する楽器を見分ける。
・オーケストラを構成する四つの楽器ファミリーと、それぞれのファミリーを構成する二つづつの楽器を 聴き分ける。
・ 音楽の要因（強弱、音色、速度、調和、韻律など）が情調を作ることを説明する。
・ 指揮者の役割について話し、指揮のパターンを練習する。 (2/4, 3/4, と 4/4).

・ YP コンサートで演奏された作曲家たちの時代とスタイルを聴き分ける。

四年生成績表 － 体育

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **運動技能動と運動パターン**
目標（抜粋）:
・移動運動パターンを上手に実演し、修正されたゲームやスポーツで応用する。
・修正されたゲームや練習で、バレーボールのレシーブ、トス、サーブを正しく実演する。
・前転、後転、腕立て側転、跳躍代への飛び乗りや、跳馬に乗ったり乗り越えたりするなどの体操の基本技能を実演する。
・様々な陸上競技に参加する。（例:ダッシュ、1/4マイルラン、1/2マイルラン、マイルラン、立ち幅跳び、砲丸投げなど）
学習要領2: 概念と手段を活用する。 運動の効用の認識。
目標（抜粋）:
・修正されたゲームや活動で、作戦を考え実践する。
・バレーボールの規則、境界線、専門用語、スコアの付け方などの知識があることを示す。（ボールがラインに触った時はOK）
・先生からの注意を聞いて間違いを直し、技術の向上には個人差があることを理解する。
学習要領3: 体力と運動への取り組み
目標（抜粋）:
・様々な運動活動中、自分の心拍数をモニターする。
・フィットネスの一部分を向上する活動をし、体のいろいろな部分を個別に鍛えること認識する。（腕立て伏せ、ペーサーテスト、腹筋、ハードラーのストレッチなど）
学習要領4: 社会的責任、運動を通じてのチーム作りと他人との共同活動。
目標（抜粋）:
・練習やゲーム中に問題があった時に適切な方法で解決し、自分の行動に責任を持つ。
・ゲームの規則や行動規範に反した時には罰則を課せられることがあることを理解する。
・体育の授業の活動中、クラスメートの技術や能力が人によって違うことを尊重する 。
・ゲーム中にチームワークを実践する。

四年生成績表　－　図画工作

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&2:意義のある表現をする/美術と交わる。
・美術家がどのように自分の見方や気持ちを表現するか話し合う。
・視覚芸術と社会科を関連させる。
・何人かの芸術家の人生やその時代について学習することで、芸術家は人間であることを理解する。
・スタイルで美術作品を分類する。
・重要な美術作品を認識する。
・個々の芸術家のスタイルを認識する。
・自分が書いたものを反映する美術作品を造る。
・音楽と視覚芸術を比較する。
学習要領3&4: 自分の考えを表現する/シンボルや表現を解釈したり作ったりする/美術教養を養う。
・肖像画をデザインしてつくる。
・新しい色をつくる。
・写生技術について詳しく述べる。
・繊維を使った美術を試してみる。
・追加したり、削ったりして彫刻を造る。
・芸術家のなかで好みを表し、好きな芸術家を持つ。
・様々な技術、過程、媒体などによって造られた多様な視覚効果について語る。
学習要領5: 美術に応じる。
・自己と他人の作品を解釈する。
・クラスメイトの作品について話し合い、前向きな意見を提供する。
・美術作品を評価し言葉で描写する。

五年生

五年生成績表　－　英語

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領 1: 読解法 **テキストの中の言葉を認識し、流暢に読み、自己チェック、自己修正を行い、理解するための読解技術を応用する。**
音声学 & ワードスタディー: 音声学の基本を理解応用し、音節や多文字パターンを認識することで、文字数の多い、多音節の言葉を読む力。
高頻度語認識と語彙: 高頻度語認識とは、規則、不規則動詞を含めた学年相応語彙がわかること、語彙とは言葉の意味や正しい使い方がわかること。
流ちょうさ: 学年相応のテキストを、正確に、適切な速さで、表現豊かに読む力。
読解: 様々な単語学習法、読解法、また他の技法（例：質問、想像、予測、関連づけ）を応用し、学年レベルの書面テキストから意味を取り出し、組み立てる力。
学習要領 2: 文章を読み、理解し、応える。 **様々な媒体による様々な形態の文章（文学、情報、説得）に応じる。**
テキストに文章や絵で応える: 読んだ文書テキストから意味を見いだし、テキストに対する自分の意見や解釈、テキストで作者が読者を引きつけるために使っている技法についての見識を、文書や絵に描いて表現する力。
テキストに口頭で応える: 質問、予想、関連づけなど使い、テキストの深い理解を念頭に、読書の前、間、後に教師とクラスメイトとの話し合いに参加する力。
グループ討論: 読んだテキストについて、さらに深く理解することを焦点に、質の高い質問を考えだし、テキストを読む前、読んだ後にグループで話し合う力。
読書感想と読書態度: 自己の能力にあって飽きずに読み通せる本を選び、読書を楽しみ、読解力を向上させ、本をしっかり読むことに満足感を覚える力。
学習要領３: 他人とのコミュニケーション **自己の考えや体験を、文章、口頭、絵や図などで表現、発展、具体化する。**
文章によるコミュニケーション: 自分の気持ちや考えを伝えるために、書き言葉の特性や、物を書く過程を利用して、目的や読者に合った文章をつくる力。
口頭によるコミュニケーション: 学年相応のテキストや、概念的な話題について、自ら率先してグループ討論に参加し、自己の意見を主張し、その意見を裏付け、様々なデジタル媒体を使って討論を進める力。

学習要領4: 正しい英語を使う。 **口頭、書面、視覚コミュニケーションで、正しい英語を使う。**
高頻度語をつづる: 毎日の授業で頻繁に使われる言葉を、文脈に合わせ正しくつづる力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
共通のパターンを一般化して言葉をづづる: 学年相応のつづりのパターンを日常のクラスワークで応用する力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
学年相応に、大文字や句読点を適切に使う: 日常のクラスワークで大文字や句読点を学年相応に適切に使う力。（例：リーダーとライターのノートブック、ワードスタディーワーク）
校正: 適切な校正方を使って自己の作品を直す力。
手書き文字: 年齢相応の読みやすい字を書く力。

五年生成績表　－　算数

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義、学習要領が答えとなる質問は以下とおりです。

学習要領１: **数字の理解と運用**	**こんな質問に答えます:** 十進法が、分数、少数、百分率、割合にどのように関わっているか。
・整数と少数を読み書き、桁を理解し、記数法を広げる。	
・素数と合成数を見きわめる。	
・数を繰り返して足したり、面積や配列を使ったりして、かけ算と割り算をわかりやすく説明する。	
・五年生の（20 までの足し算引き算、かけ算、10 の割り算）ファクト目標成する。	
・偶数と奇数を見分ける。	
・ある数字の約数を探す。	
・二桁以上の整数と少数の積を求める。	
・二桁以上の整数と少数の和と差を求める。	
・二桁の整数で整数を割り、その答とあまりを求める。	
・分数を大きさで順番に並べ、比較する。	
・分数,百分率,帯分数を転換する。	
・同値分数を見つける。	
・同分母分数の足し算引き算をする。	
・異分母分数の足し算引き算をする。	
・公分母を見つける。	
・全体に対する比率、ふたつの数字の比率、百分率を含んだ問題を解く。	
・整数値を比較し並べる。	
学習要領 2: **測定**	**こんな質問に答えます：** 図形と空間、測定が日常の生活でどういう意味を持ち、問題どうを解決するか。
・いくつかの種類の三角形を見きわめ、説明し、描く。	
・多角形の特徴がわかる。	
・鋭角、鈍角、平角、優角を見分け、説明し、描く。	
・座標の指定された場所に点をいれる。	
・三角形と平行四辺形の高さと底を見きわめる。	
・角柱と円柱の体積を公式を使って求める。	
・多角形と円の面積を公式を使って求める。	

学習要領4: **データと統計**	**こんな質問に答えます：** データの収集、整理、表示が、情報の分析、適切な予想、情報に基づいた判断にどのように役立つか。
・言葉やフレーズを使って確率を予想する。	
・一式のデータの中から最大値、最小値、範囲、中央値、最頻値を求める。	
・サンプルサイズが結果に与える影響を理解する。	
・円グラフを読み、作成する。	
・ラインプロットとグラフを解釈する。	
・ことの起こる確率を計算する。	
学習要領５: **代数**	**こんな質問に答えます：** パターンと関数が、データや物理的現象を説明し、様々な問題を解決するのにどう役立つか。
・数字を含んだ文章題を式にする。	
・式の中の数字を解く順番を理解し、正しくその規則を応用し、式を解く。	
・式での括弧の場所や使い方と意味を理解する。	
・算数の属性を説明し応用する。	
・代数をつかってある状況を示す。	

五年生成績表　－　科学

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: 5.1: 音と光はエネルギーの一形態である。
・振動している物体は、その振動が別の物体（空気、個体、液体）を通って伝わる時に音を作ると言う法則を引き出す。
・音の多きさ、音程、音質/音色がいろいろあるようすを示す。
・音程に影響を与える要因を調べる簡単なテストを考案、実施する。
・音を吸収したり反射したりする物の特徴を説明する。
・音を吸収/反射する物の特徴を分析し、分析結果を基に音を吸収/反射する装置をつくる。
・様々な音程、音質/音色、大きさを出す簡単な楽器を作る。（例:ゴムバンドギター、ドラムなど)
・光が、光の源から離れて、様々な方向に、まっすぐに進むと言うことを証明する。
・光がレンズを通り抜けたり、透明な物から別の透明な物に通り抜けたりする時に屈折するようすを調べる。
・白い光は様々な色で構成されていることを示す。
・目で見ることの出来るすべての物は目に光を反射していることを説明する。
・すべすべして光のある物（例:鏡、プールの水）やそうでない物の反射のようすを比べる。
・鏡に反射する光の道を予測するために角度を測る。
・光の通り抜け方で、物が不透明、半透明、透明であるかを判断する。
・光の源や光を遮断するもの位置を変えることで影の大きさ、長さ、方向、濃さが変わる、光の吸収力の調査法を考案実施する。
学習要領 2: 5.2: 環境が生命体の存続に重要であるということについての情報を理解する。
・外からの刺激（明るい/暗い、熱い/冷たい、味、痛さなど）を受け入れる感覚器官の役割を説明する。
・人の反射神経に影響を与える要因調査に関し、テスト可能な疑問を提唱し、テストを考案実施する。
・人間の感覚能力を試す簡単なテストをする。
・ノンフィクションを要約し、感覚器官から入ってきた情報に反応する時の能と脊髄の役割を説明する 。
・人間の目、耳、鼻、皮膚、舌の構造と役目を説明する。
・光源からでた光線が、物に反射し、人の目に入ることで物が見えるようすを図に描く。
・色の識別を可能にする目の中の部分の特徴と構造を説明する。
学習要領3: **5.3:**太陽系にある殆どの物は予想可能な一定の動きをしている。
・地球に昼と夜をもたらす、地球の太陽を中心とした回転の仕方を説明する。
・地球の自転、月の地球を中心にした回転、地球と月の太陽を中心にした回転を示すモデル

をつくる。
・光を放っている太陽と、その光を反射している月の違いを理解する。
・月の形の変化の様子を観察記録、発見したことを分析し、地球から見た月の形の変化を説明する。
・月が地球を一周する、29日のサイクルの中での月の形の変化を、地球と月の位置関係との関わり合いで考える。
学習要領4: 5.4: 人間は生活向上のために道具を使い、建設することができる。
・双眼鏡、望遠鏡、眼鏡、潜望鏡などといった光学ツールが光の道を反射や屈折によって変化させるということを一般的に述べる。
・人の視覚を高めるために使われる器具、虫眼鏡、顕微鏡、望遠鏡などを説明する。
・与えられた仕事をこなすのに一番適切な光学ツールを選ぶ。
・レンズや鏡の形（くぼんでいる、でっぱっている、平らである）が、入ってきた光の方向に与える影響を調べる簡単なテストを考案実施する。
・眼鏡やコンタクトレンズが網膜に入ってきた光の道を変えることで人の視力を改善するようすを説明する。
・人間の目とカメラの構造の類似点と相違点を分析する。

五年生成績表　－　社会

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **社会科の知識:** 歴史や社会から学ぶ観念、テーマ、知識は、アメリカと世界の理解を推進するのに必要である。
目標（抜粋）:
・争いの原因となる経済、政治、宗教の違いを比較対照する。
・13 のアメリカ植民地において、それぞれ地方がどのように植民地をつくっていったか、それぞれの新しい環境にどのように対応していかなければならなかったかを比較対照する。
・アメリカ連邦政府の意図、構造、役目、権力の分担、市民がどのように政府に貢献出来るかを説明する。
・市民の義務と権利とは何かを示す。
・ビジネスが限られた資源をどのように利用して商品を製造するか、貿易が世界の様々な地域をどう結びつけているかを分析する。
学習要領2: **歴史/社会の学習に必要な読み書き能力:** 読み、書き、質問し、調査する力は、歴史や社会の情報を分析、評価、発表するために必要である。
目標（抜粋）:
・一次資料と二次資料からの情報を見つけ集める。
・社会科に関連のある情報を参考に、作者の考え方を説明する。
・既存のアウトラインやオーガナイザーなどからの情報を使い、証拠を用いながら歴史上の出来事を説明した文書をつくる。
・証拠を基に、社会の出来事、問題、論争について口頭発表する。
・重要な歴史的出来事を基に地図やタイムラインを作る。
学習要領3: **社会の一員としての自覚:立派な社会の一員として、歴史上又は時事問題を分析するには、情報、技術力、評価力などを総合させて使うことが必要である。**
目標（抜粋）:
・歴史上の出来事に関する様々な意見を認識、説明し、評価を支持する。
・自己の体験や読んだ本などから歴史上の人物に対する思いや意見を表現する。
・時事問題の解決案がどんな影響を及ぼす可能性があるかを評価する。

五年生成績表　－　ワールドランゲージ

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: コミュニケーション（他人とのコミュニケーション): 会話や手紙のやり取りに従事し、情報を収集、提供し、意見や感情を伝える 。
・口頭と文章で完成文を使って意思疎通する。
・身近な話題に、独自の文章を使う。
・躊躇しながらも日常生活や教科内容などについて話す。
学習要領2: コミュニケーション（話しかけられたこと、書かれたことを理解する): 様々な話題について、話し言葉や書き言葉を理解し解釈する。
・話されている内容についてのサポートがあれば、学んだばかりの語彙や観念を焦点においた質問や命令を含む、普通の速さで話されている会話が理解できる。
・馴染みのある内容の馴染みのある話題についての文章を解釈し理解する。
学習要領 3: コミュニケーション（伝える): 様々な話題について聴者や読者に情報、概念、アイディアなどを伝える。
・多少の躊躇はあっても、パーソナルな話題やテーマに基づいた話題について、完成文を使ってグループや個人を対象に口頭発表する。
・既に学習した語彙や文法、新しく学んだ語彙や文法を使って、短い独自の作品をつくる。
学習要領4: 関連づけ（他の教科との関連づけ): 学習している言語を使って、他の教科の知識を広げる。
・社会や理科に関係する話題を特定の語彙を使って話す。
・学習した言語を使い教科分野の話題を広げたり詳しく説明したりする。

五年生成績表 － メディア/テクノロジー

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです

学習要領1: 調査/情報自在: 情報を検出、評価、総合化する。
・オンラインカタログを使い、キーワード、著者、題名、内容などを使って資料を選ぶ。
・キーワード、プール検索、アドヴァンス検索などの電子検索方法を使う。
・簡閲操縦道具を使ってウエブサイト、オンライデーターベース、さらにウエブクエストの様な選択されたカリキュラムを訪ねる。
・ビッグ6を使って調査の質問に答える。
・正確さ、影響力、現在性、展望などに基づいて情報を評価する。
・広い範囲に渡る情報源とその目的を見分け、見つけ、理解する。
学習要領2: コミュニケーションとイノヴェーション: デジタルや視覚媒体を使って情報を得る。
・情報を整理し、作成し発表する為に適切なデジタル媒体（デジタルビデオ、ポッドキャスティング、ウエブ2.0ツール）を選び使う。
・複合媒体プロジェクトを作成する為にストーリーボードや他のグラフィックオーガナイザーを使う。
学習要領 3: テクノロジー操作と概念: テクノロジーを使って学習、問題解決し、生産性を高める。
・ハードウエアーとソフトウエアーの基本的操作ができる。
・簡単な課題にワードプロセッサーを使って書き、修正し、イラストを描き、印刷し保存する。
・キーボードを使う適切な能力があることを示す。 (一分間に20ワード、正確度90%以上)
・情報を整理し表示する為にスプレッドシートプログラムを使う。
・基本的なスプレッドシート用語と機能を見分ける。
・ウエブページの操作を理解し実演する。
・文書が作れることを示す。
学習要領 4: **デジタルの正しい使用: 法的、道徳的な責任をもって、テクノロジーや情報源を利用する。**
・資料を適切に扱えることを示す。
・引用先を表記することで知的財産の使用に関するガイドラインや規則を守り尊重する。
・オンラインの適切で安全な使用法を見分け、話し合い、実践する。 （例:AUP 利用規定）
・様々な種類のオンラインコミュニケーションを行うことで発生するリスクを理解する。
・選択された媒体とそのメッセージについて分析、質問、評価、批判的思考をする。
学習要領5: 文学鑑賞: 自己成長、単独学習、娯楽のために幅広く読書をする。
・自己の能力や興味にあった適切な資料を選択する。
・様々な文学のジャンルを理解認識する。

五年生成績表 － 音楽

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&4: 音楽教養
・付点二分音符、付点四分音符、三連八分音符、四分音符、八分音符、階名、付点四分休符を使った、馴染みのある、または馴染みのないリズミカルな節、歌、韻文詩を、歌い、詠唱、再現する。
・付点二分音符、付点四分音符、三連八分音符、四分音符、八分音符、付点四分休符を使ったリズミカルな節を、読み、作り、書く。（作曲）
・“ド-レ-ミ-ソ-ラ”を使って、短いメロディーや歌を繰りかえす。
・“ド-レ-ミ-ソ-ラ”を使って、馴染みのある、または馴染みのない短いメロディーや歌を口ずさみ再現する。
・“ド-レ-ミ-ソ-ラ”と、それに対応する音名を使って、ヘ長、ト長で、短いメロディーを読み、作り、書く（作曲）。
・十六分音符、ペアーの十六分音符と八分音符のコンビネーション、四分音符、四分休符、二連八分音符、階名を使った韻文詩、歌、リズミカルな節を詠唱し、歌い、口ずさみ再現する。
・十六分音符、ペアーの十六分音符と八分音符のコンビネーション、四分音符、四分休符、二連四分音符を使ったリズミカルな節を読み、作り、書く。（作曲）
・年齢相応の体の動きや、動きのテーマで音楽に答える。
・歌いながら、様々な、年齢相応のフォークダンスやフォークダンスの動きをしてみる。
学習要領2: 創作
・付点二分音符、付点四分音符、三連八分音符、四分音符、八分音符、付点四分休符を使ったリズミカルな節を即興で作り口ずさむ。
’・付点二分音符、付点四分音符、三連八分音符、四分音符、八分音符、付点四分休符を使ってリズミカルな節を読み、作り、書く。（作曲）
・“ド-レ-ミ-ソ-ラ”を使って、即興で短いメロディーを作り口ずさむ。
・“ド-レ-ミ-ソ-ラ”と、それに対応する音名を使って、ヘ長、ト長で、短いメロディーを読み、作り、書く（作曲）。
・十六分音符、ペアーの十六分音符と八分音符のコンビネーション、四分音符、四分休符、二連八分音符 を使った リズミカルな節を即興で口ずさむ。
・十六分音符、ペアーの十六音符と八分音符のコンビネーション、四分音符、四分休符、二連四分音符を使ったリズミカルな節を読み、作り、書く。（作曲）
学習要領 3 & 5: 対応と関連づけ
・動きの中にパターンを見つけ、それと音楽の形を関連づける。
・動きやダンスと、他の教科（算数、英語、図画工作、社会、地理、体育）、文化、日常生活とを関連づける。
・オーケストラを構成する四つの楽器ファミリーと、それぞれのファミリーを構成する楽器を見分ける。
・オーケストラを構成する四つの楽器ファミリーと、それぞれのファミリーを構成する二つづつの楽器を聞き分ける
・音楽の要因（強弱、音色、速度、調和、韻律など）が情調を作ることを説明する。
・指揮者の役割について話し、指揮のパターンを練習する。 (2/4, 3/4, と 4/4).
・YP コンサートで演奏された作曲家たちの時代とスタイルを聞き分ける。

五年生成績表 － 体育

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要領ごとに分類しました。教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1: **運動技能動と運動パターン**
目標（抜粋）:
・短い跳び縄を使い、最低３種類の縄跳び技術を使って、リズムの乗った縄跳びをデザインし、実演する。
・簡単なゲームで、または単独で様々なバスケットボールのテクニックを実演する。（例:ドリブル、ピボット、パス、キャッチ、シュート）
・アイスブレーカー、問題解決、イニシアティブ、協力チャレンジなどといったアドベンチャー活動に参加する。
・地図の凡例を使ってランドマークを見つけたり、適切に地図を読み、屋内、屋外でのチェクポイントを見つけたりする。
学習要領2: 概念と手段を活用する。 運動の効用の認識。
目標（抜粋）:
・自分と他人の技術を分析し、向上させる。
・バスケットーボールの規則、境界線、専門用語、スコアの付け方などの知識があることを示す。（トラベリング、ダブルドリブル）
・挑戦を克服する方法はいろいろあることを認識応用し、運動神経の有る無しにかかわらず、すべての人が問題解決に重要な役割を果たすことを理解する。
・オリエンテーリングは心肺機能を向上させ、道路地図や市街地図を読む練習となる、地図を読む力を活用させる国際的なスポーツであることを理解する。
学習要領3: 体力と運動への取り組み
目標（抜粋）:
・フィットネスの４大要素を向上させる体操の効用を説明し実施する。
・個人の生活習慣とフィットネスレベルの関係を分析、自己目標への進展をモニターする。
・心拍数のモニターの仕方を理解し、様々な運動活動で活用する。
・マイルラン、腕立て伏せ、腹筋などで、年齢と学年のあったコネチカット体力標準の健康レベルを達成/卓越する。
学習要領4: 社会的責任、運動を通じてのチーム作りと他人との共同活動。
目標（抜粋）:
・ゲーム中や練習中に適切な問題解決法を使い、自分の行動に責任を持つ。
・参加している活動の規則や行動規範を守らないと罰則があることを理解する。
・個人によって技術や能力のレベルが様々であることを理解尊重する。
・チームワークを実践する。

五年生成績表　－　図画工作

子供たちの学習の様子を評価しやすくするために、成績表の目標は学習要項ごとに分類しました。 教師は様々な資料を参考に子供たちの目標達成度を計ります。 学習要領、それに対応する目標、定義や例などは以下のとおりです。

学習要領1&2:意義のある表現をする/美術と交わる。
・自然に触発された美術作品を造る。
・自己体験を反映した芸術を比較対照する。
・芸術作品に存在する過去や現在の出来事を解釈する。
・様々な文化や時代の芸術家たちによる作品を比較対照する。
・プロポーションを、デザインの組織原則のひとつとして認識する。
・時事問題を提唱する美術家の作品について話し合い、評価する。
学習要領3&4: 自分の考えを表現する/象徴的表現を解釈したり作ったりする/美術教養を養う。
・正確に伝えたいことを表現できる様に、媒体、技巧、過程、道具、設備などに関する言葉を選ぶ。
・印刷の技巧とその方法/過程に関する知識があることを示す。
・様々な材質（例:張り子用の混凝紙、石こう、厚紙など）から、上級のアッサンブラージュを造る材料を選ぶ。
・テクノロジーを、知識を得るための道具、美術品作成の手段（例：美術家のためのソフトウエアー）、又 インターネットを美術調査の道具として認識する。
・他人の美術品を評価し大切に扱う。
・個人のシンボルを取り入れて立体の作品を作る。（例：粘土彫刻の装飾図案、布のデザイン、商品のデザイン）
・美術のスタイルを見きわめて比較する。（例：印象主義、写実主義、超現実主義、立体主義）
・線、価値、感触、強調、空間、リズム、調和、バランスなどのデザインの概念の理解を示す、線で組み立てられた絵を描く。
学習要領5: 美術に応える。
・適切な美術用語を使って美術作品を分析解釈する。
・組織原理と美術の基本に基づく作品の解釈と、文化基準に基づく解釈を区別する。
・自分の作品を教師の作成した基準で評価し、その分析を基に作品を手直しする。
・自分の芸術家としての成長を特定の範疇（例:教師による基準、文書による回答、スケッチブック、作品集など）と関連させて評価する。